ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査報告書

2015 年 5 月

日本独文学会　ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会

協力：Goethe-Institut Tokyo

ドイツ語教科書協会

日本独文学会ドイツ語教育部会

協賛：Hueber Verlag

目　次

はじめに……5

第１部　教育機関編

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的と位置づけ……10
２　調査設計……10
（１）調査対象……10
（２）対象数……10
（３）調査方法……11
（４）調査期間……11
３　調査項目……11
４　回収結果……12

Ⅱ　調査結果

１　教育機関の種別……16
２　学部の系統……16
３　ドイツ語を統括する組織について……17
（１）ドイツ語を統括する組織の有無……17
（２）専任として籍を置くドイツ語教員の人数……17
４　専任教員の人数……18
５　ドイツ語教員の人数……19
６　在学者数……21
７　大学・高校教育における外国語学習のウェイト……22
（１）卒業に最低必要な外国語の総単位数……22
（２）複数の外国語履修の義務づけの有無……23
８　開講されている外国語科目……24
（１）履修可能な外国語科目……24
（２）各外国語科目の合計履修者数……25
９　ドイツ語科目について……26
（１）レベル別ドイツ語クラス数……26
（２）レベル別ドイツ語履修者数……28

（３）開講されているドイツ語科目の種類 29
（４）授業で利用可能な機器・環境として用意されているもの 31
（５）授業の到達目標や教授法などに関する共通枠組みの設定 33
１０　授業以外のドイツ語学習の機会 34
（１）学生の海外ドイツ語研修制度 34
（２）海外でのドイツ語学習の単位認定 36
（３）推奨している学外のドイツ語検定試験 37
（４）学外のドイツ語検定の単位認定 39
１１　ドイツ語教員の研修制度 40
１２　学生に対するドイツ語履修のプロモーション 44

Ⅲ　ドイツ語履修者数の推計
１　大学におけるドイツ語履修者数の推計 50
２　短期大学におけるドイツ語履修者数の推計 52
３　高等専門学校におけるドイツ語履修者数の推計 53
４　高等学校におけるドイツ語履修者数の推計 54
５　全国の教育機関におけるドイツ語履修者数の推計 55

Ⅳ　資料
１　調査協力依頼状 58
２　回答のためのガイドライン 60
３　調査票 62

第２部　教員・学習者編

Ⅰ　調査の概要
１　調査の目的と位置づけ 72
２　調査設計 72
（１）調査対象 72
（２）対象数 72
（３）調査方法 72
（４）標本抽出 73
（５）調査期間 73
３　調査項目 73
４　回収結果 74

Ⅱ　調査結果

1　教員編……75
2　学習者編……107

Ⅲ　資料

1　調査協力依頼状……140
2　「調査票の返送について」……141
3　調査票……142

はじめに

日本独文学会では、2012 年、当時会長であった室井禎之氏の発案により、日本のドイツ語教育・学習者の実態を明らかにするためのアンケート調査を実施することになった。その背景には、日本のドイツ語教育の将来のあり方を考えるためには、まずは現状の正確な認識が不可欠であるという問題意識があった。同種の調査研究として、日本独文学会ドイツ語教育部会 ドイツ語教育に関する調査研究委員会（編）(1999):『ドイツ語教育の現状と課題 ―アンケート結果から改善の道を探る―』 があるが、その後、教育方法や学習環境、またドイツ語教育をめぐる社会的状況は大きく変わり、あらためて大規模な調査を行う必要があると考えられた。

本調査の結果は、全国の教育機関を対象とした第 1 回調査（2012 年実施）のまとめが出来上がった時点で、ひとまず『中間報告』として日本独文学会のホームページ上にて公開した。その後、教員および学習者を対象とした第 2 回調査（2014 年実施）の分析が終了し、この度その報告書を、先に公開済みの第 1 回調査の『中間報告』と合わせたかたちで刊行することとした。すなわちこの『調査報告書』には、第 1 回調査の『中間報告』がそのまま再録されている。

なお、ドイツ語版の報告書は、第 1 回調査の結果をまとめた Untersuchungsbericht 1: Die Bildungsinstitutionen と第 2 回調査の結果をまとめた Untersuchungsbericht 2: Die Lehrenden – Die Lernenden の分冊となっている。いずれも、学会ホームページ上からダウンロード可能である。

本報告書の執筆にあたっては、学会として何らかの主張を行うのではなく、もっぱら調査結果を客観的に記述することにつとめ、結果を踏まえた解釈や提言は極力行わないという立場を採った。今回のアンケート調査の目的は、ドイツ語教育・学習者の実態について信頼のおける基礎データを獲得する点にある。本報告書が、ドイツ語教育に関わる方々の教育・研究活動のリソースとして広く活用されることを願っている。

最後に、本調査にご協力いただいた教育機関、教員、学習者のみなさま、翻訳にご協力いただいた方々、また、多大なご支援をいただいた Goethe-Institut Tokyo、ドイツ語教科書協会、日本独文学会ドイツ語教育部会、Hueber Verlag に、心より感謝を申し上げる。

2015 年 5 月

日本独文学会　ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会
委員長　太田 達也

第 1 部

教育機関編

Ⅰ　調査の概要

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的と位置づけ

日本独文学会では、2012 年度よりドイツ語教育の実態調査を実施することとした。これは、日本のドイツ語教育の将来のあり方を考えるため、全国の大学・短期大学・高等専門学校・高等学校におけるドイツ語の学習者数をはじめ、各教育機関での授業カリキュラムなど、ドイツ語教育の現状を明らかにしようとするものである。

このプロジェクトは以下の 3 つの調査からなり、2 段階に分けて実施する。今回の調査はその第 1 回にあたる。第 2 回では、教員、学習者を対象とした調査を同時期に行う予定である。

第 1 回調査　　全国の教育機関を対象とした調査（全数調査）
第 2 回調査　　ドイツ語教員を対象とした調査（標本調査）
　　ドイツ語学習者を対象とした調査（標本調査）

２　調査設計

（1）調査対象

ドイツ語の授業が開講されている全国の教育機関（大学・短期大学・高等専門学校・高等学校）

※1　本調査は、全国すべての教育機関を対象としたものではない。この報告書を読む際は、その点に留意されたい。

※2　調査票の送付先を同定するにあたり、文部科学省より提供された情報をもとに、ドイツ語教科書協会の協力を得て、ドイツ語の授業が開講されている全国の大学・学校を記載した「調査対象リスト」を作成した。

※3　大学については、原則として学部を基本的な単位として調査を実施した。ただし、複数の学部のドイツ語を統括する組織（外国語教育センターや全学教育機構など。以下、これらを「ドイツ語を統括する組織」と称する）としての回答が寄せられた大学については、集計段階において学部とは別の扱いとした。

※4　独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻については、大学（学部）とは別に調査対象とした。

（2）対象数

区分	件数
大学（※1）	1,837
（学部及びドイツ語を統括する組織）	(1,795)
（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	(42)
短期大学	70
高等専門学校（※2）	60
高等学校	129
合計	2,096

※区分は、調査票発送時の想定

※1　「調査対象リスト」に記載された大学数は 520 である。これらの大学のすべての学部及びドイツ語を統括する組織に各 1 通の調査票を発送した（計 1,795 件)。さらに、「調査対象リスト」に記載された独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻に対しても各 1 通の調査票を発送した（計 42 件)。結果、あわせて 1,837 の機関にあてて調査票を送付した。

※2　「調査対象リスト」に記載された高等専門学校数は 55 である。このうち 5 校については 2 つのキャンパスそれぞれに各 1 通の調査票を発送した。結果、高等専門学校に対しては、あわせて 60 通の調査票を送付した。

（3）調査方法

郵送法（郵送配布－郵送回収）

※1　発送先はすべて事務部署宛てとし、ドイツ語担当教員との連携協力を求める依頼状及び回答のためのガイドラインを同封した。

※2　日本独文学会から学会員へのメールによる勧奨及び事務部署宛ての葉書による再依頼を 1 回実施した。

（4）調査期間

平成 24 年 11 月 21 日～12 月 14 日

※　調査期間後に回収した調査票についても、できる限り調査結果に反映した。

3　調査項目

1　教育機関の種別（問 1）
2　学部の系統（問 1-1）
3　ドイツ語を統括する組織について（問 1-2、問 1-2-1）
4　専任教員の人数（問 2）
5　ドイツ語教員の人数（問 3）
6　在学者数（問 4）
7　大学・高校教育における外国語学習のウェイト（問 5、問 6）
8　開講されている外国語科目（問 7、問 8）
9　ドイツ語科目について（問 9、問 10、問 11、問 12、問 13）
10　授業以外のドイツ語学習の機会（問 14、問 15、問 16、問 17）
11　ドイツ語教員の研修制度（問 18、問 18-1）
12　学生に対するドイツ語履修のプロモーション（問 19、問 19-1）

４　回収結果

調査対象リストに記載された全国の教育機関（総計 2,096）に調査票を送付し、そのうち 941 の学部・学校から回答を得た（有効回収 849 件、無効回収 92 件。有効回収率 40.5%）。

	適用	件数	
A	発送数	2, 096	
B	郵送物未着	3	
C	回収数	941	
D	有効回収数	849	
E	無効回収数	92	
	・連絡によるドイツ語科目非開講	13	
	・調査回答によるドイツ語科目非開講	71	
	・白票	8	
F	有効回収率	40. 5%	D/A*100

教育機関の種別ごとに見た場合、次のとおりである。

（1）大学

①学部及びドイツ語を統括する組織

	適用	件数	
A	発送数	1,795	
B	郵送物未着	2	
C	回収数	785	
D	有効回収数	716	
	・学部単位での回答	674	
	・大学またはキャンパス単位での回答	42	
E	無効回収数	69	
	・連絡によるドイツ語科目非開講	8	
	・調査回答によるドイツ語科目非開講	53	
	・白票	8	
F	有効回収率	39.9%	D/A*100

②独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻

	適用	件数	
A	発送数	42	
B	郵送物未着	0	
C	回収数	19	
D	有効回収数	19	
E	無効回収数	0	
	・連絡によるドイツ語科目非開講	0	
	・調査回答によるドイツ語科目非開講	0	
	・白票	0	
F	有効回収率	45.2%	D/A*100

（2）短期大学

	適用	件数	
A	発送数	70	
B	郵送物未着	0	
C	回収数	30	
D	有効回収数	25	
E	無効回収数	5	
	・連絡によるドイツ語科目非開講	0	
	・調査回答によるドイツ語科目非開講	5	
	・白票	0	
F	有効回収率	35.7%	D/A*100

（3）高等専門学校

	適用	件数	
A	発送数	60	
B	郵送物未着	0	
C	回収数	45	
D	有効回収数	38	
E	無効回収数	7	
	・連絡によるドイツ語科目非開講	2	
	・調査回答によるドイツ語科目非開講	5	
	・白票	0	
F	有効回収率	63.3%	D/A*100

（4）高等学校

	適用	件数	
A	発送数	129	
B	郵送物未着	1	
C	回収数	62	
D	有効回収数	51	
E	無効回収数	11	
	・連絡によるドイツ語科目非開講	3	
	・調査回答によるドイツ語科目非開講	8	
	・白票	0	
F	有効回収率	39.5%	D/A*100

Ⅱ　調査結果

Ⅱ　調査結果

1　教育機関の種別

問１　該当する教育機関の種別を選び、番号に○をつけてください。

＜図表 1＞教育機関の種別

調査数	大学（学部）	大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	短期大学	高等専門学校	高等学校
807	674	19	25	38	51
100.0%	83.5%	2.4%	3.1%	4.7%	6.3%

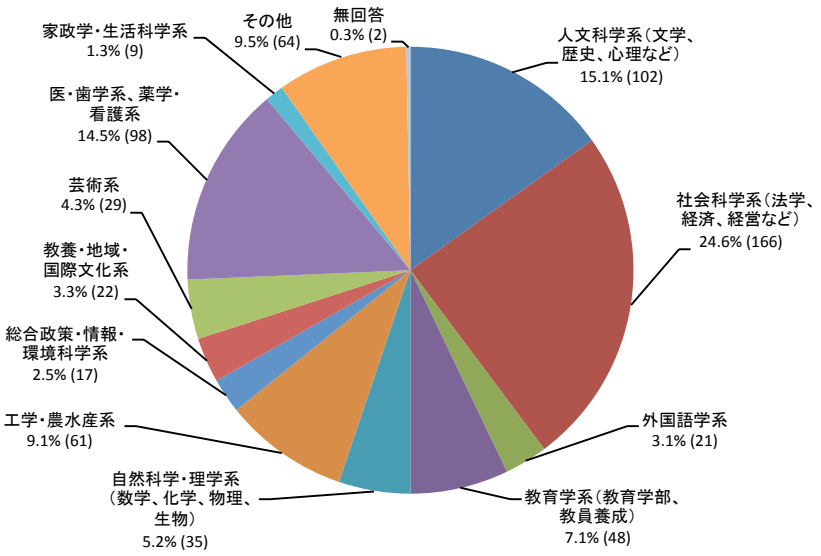
今回の調査で得られた有効回収数は、大学（学部）では 674 件、大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻）では 19 件、短期大学では 25 件、高等専門学校では 38 件、高等学校では 51 件であった。（図表 1）

なお、問 2 以下の図表における調査数（N）が左記の数字と必ずしも一致しないのは、設問によって無回答あるいは無効回答のケースがあるためである。

2　学部の系統

問１－１　（問１で「１　大学（学部）」と回答した方におたずねします。）
あなたの学部は次のどの系統ですか。もっともよくあてはまるものを一つ選び、番号に○をつけてください。

＜図表2＞学部の系統　N=674件



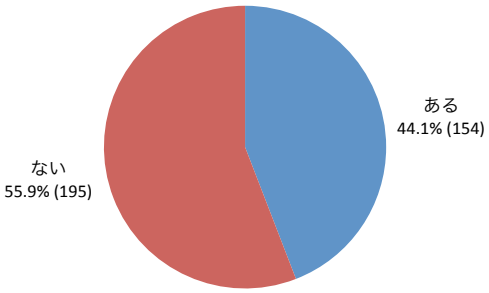
学部の系統が複数の領域にまたがる場合には、もっとも近いと考えられるものを１つだけ選ぶというかたちで回答していただいた。結果、「社会科学系（法学、経済、経営など）」が 24.6%で最も多く、次いで「人文科学系（文学、歴史、心理など）」が 15.1%、「医・歯学系、薬学・看護系」が 14.5%と続いている。（図表 2）

３　ドイツ語を統括する組織について

（１）ドイツ語を統括する組織の有無

問１－２　（問１で「１　大学（学部）」と回答した方におたずねします。）
あなたの大学には、外国語教育センターや全学教育機構など、複数の学部のドイツ語を統括する組織がありますか。

＜図表3-1＞複数の学部のドイツ語を統括する組織の有無
N=349



大学における複数の学部のドイツ語を統括する組織の有無は、「ある」が 44%程度と、「ない」が 56%程度となっており、回答のあった大学のうち 4 割を超える大学に外国語教育センターや全学教育機構などの統括組織があるという結果になった。（なお、集計は大学単位で行い、同じ大学の複数の学部から異なる回答があった場合には、「ある」という回答を採用した。）（図表 3-1）

（２）専任として籍を置くドイツ語教員の人数

問１－２－１　（問１－２で「１　ある」と回答した方におたずねします。）
当該組織に専任として籍を置くドイツ語教員は何名いますか。

＜図表 3-2＞専任として籍を置くドイツ語教員の人数

①任期なしのドイツ語専任教員

調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
152	**1.4**	2.0	0.0	11.0

②任期つきのドイツ語専任教員

調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
134	**0.3**	1.1	0.0	9.0

大学において複数の学部のドイツ語を統括する組織（外国語教育センターや全学教育機構など）に専任として籍を置くドイツ語教員の人数は、任期なしのドイツ語専任教員が平均 1.4 人、任期つきのドイツ語専任教員が平均 0.3 人となっている。（図表 3-2 ①②）

４　専任教員の人数

問２　あなたの所属する機関には、専任教員は何名いますか。

専任教員の人数は、ドイツ語担当教員に限らず、あらゆる専門領域を含む専任教員の総数をたずねた。大学（学部）の場合は、回答者の所属する学部の専任教員の人数となっている。また、大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻）の場合は、当該学科・専攻等に所属する専任教員の人数となっている。なお、大学（学部）において専任教員の最大値（807.0）と任期つきの専任教員の最大値（977.0）がそれぞれ極端に大きな値を示しているのは、多くの専任教員・任期つきの専任教員が勤める医療系学部のケースである。（図表４ ①②）

＜図表 4＞専任教員の人数

①任期なしの専任教員

	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
大学（学部）	645	**58.3**	77.3	0.0	807.0
大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	19	**11.5**	17.8	0.0	63.0
短期大学	25	**22.7**	15.1	0.0	52.0
高等専門学校	38	**51.4**	31.4	0.0	94.0
高等学校	43	**35.3**	34.0	0.0	149.0

②任期つきの専任教員

	調査数	平均	標準偏差	最小値	最大値
大学（学部）	644	**14.4**	54.6	0.0	977.0
大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	19	**1.4**	1.4	0.0	5.0
短期大学	25	**2.2**	3.5	0.0	15.0
高等専門学校	38	**0.6**	1.6	0.0	8.0
高等学校	43	**4.5**	11.1	0.0	55.0

５　ドイツ語教員の人数

問３　あなたの所属する機関には、ドイツ語教員は何名いますか。

ドイツ語教員の人数は、専任教員（任期なし）、専任教員（任期つき）、非常勤教員の人数を、それぞれ日本人教員、ネイティブ教員別にたずねた。大学（学部）の場合は、回答者の所属する学部のドイツ語担当教員数となっている。ただし非常勤教員については、たとえ他学部や外国語教育を統括するセンター等に所属していても、当該学部のドイツ語授業を担当している場合には、その数も算入して回答していただいた。

任期なしの専任教員（下記表①）と非常勤教員の人数（表③）を比較してみると、大学（学部）では前者が平均 1.0 人（日本人教員平均 0.9 人、ネイティブ教員平均 0.1 人）であるのに対し、後者は平均 2.7 人（日本人教員平均 2.2 人、ネイティブ教員平均 0.5 人）であった。

また、独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻では任期なしの専任教員が平均 5.8 人（日本人教員平均 4.8 人、ネイティブ教員平均 1.0 人）に対し非常勤教員平均 6.9 人（日本人教員平均 4.0 人、ネイティブ教員平均 2.9 人）、以下同様に短期大学では専任平均 0.3 人（日本人教員平均 0.3 人、ネイティブ教員平均 0 人）に対し非常勤平均 1.2 人（日本人教員平均 0.9 人、ネイティブ教員平均 0.3 人）、高等専門学校では専任 0.7 人（日本人教員平均 0.7 人、ネイティブ教員平均 0.0 人）に対し非常勤 0.6 人（日本人教員平均 0.6 人、ネイティブ教員平均 0 人）、高等学校では専任 0.6 人（日本人教員平均 0.5 人、ネイティブ教員平均 0.1 人）に対し非常勤 1.5 人（日本人教員平均 1.0 人、ネイティブ教員平均 0.5 人）であった。（図表 5 ①～③）

＜図表 5＞ドイツ語教員の人数

①専任教員（任期なし）／上段・・日本人、下段・・ネイティブ

	調査数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値
大学（学部）	637	551	**0.9**	1.5	0.0	18.0
	565	46	**0.1**	0.3	0.0	1.0
大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	17	82	**4.8**	3.8	0.0	17.0
	15	15	**1.0**	1.0	0.0	4.0
短期大学	23	8	**0.3**	0.5	0.0	1.0
	19	0	**0.0**	0.0	0.0	0.0
高等専門学校	35	26	**0.7**	0.7	0.0	3.0
	29	0	**0.0**	0.0	0.0	0.0
高等学校	32	15	**0.5**	0.7	0.0	3.0
	27	2	**0.1**	0.3	0.0	1.0

②専任教員（任期つき）／上段・・日本人、下段・・ネイティブ

	調査数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値
大学（学部）	565	32	**0.1**	0.4	0.0	7.0
	554	27	**0.0**	0.2	0.0	3.0
大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	13	8	**0.6**	0.7	0.0	2.0
	15	9	**0.6**	0.6	0.0	2.0
短期大学	19	0	**0.0**	0.0	0.0	0.0
	19	0	**0.0**	0.0	0.0	0.0
高等専門学校	31	1	**0.0**	0.2	0.0	1.0
	28	0	**0.0**	0.0	0.0	0.0
高等学校	29	2	**0.1**	0.3	0.0	1.0
	26	1	**0.0**	0.2	0.0	1.0

③非常勤教員／上段・・日本人、下段・・ネイティブ

	調査数	合計	平均	標準偏差	最小値	最大値
大学（学部）	616	1329	**2.2**	3.6	0.0	33.0
	575	282	**0.5**	1.0	0.0	9.0
大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	14	56	**4.0**	4.9	0.0	18.0
	15	43	**2.9**	2.9	0.0	12.0
短期大学	22	20	**0.9**	0.9	0.0	4.0
	20	5	**0.3**	0.4	0.0	1.0
高等専門学校	33	21	**0.6**	0.5	0.0	2.0
	28	0	**0.0**	0.0	0.0	0.0
高等学校	45	47	**1.0**	0.8	0.0	4.0
	34	18	**0.5**	0.6	0.0	2.0

６　在学者数

問４　あなたの所属する機関の在学者は何名ですか。2012 年 5 月の時点での人数をお答えください。

在学者数は、ドイツ語履修者だけでなく、すべての在学者数を問うている。大学（学部）の場合は回答者の所属する学部の在学者数、大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻）の場合は当該学科・専攻等の在学者数、高等専門学校の場合は「専攻科 1 年生」「専攻科 2 年生」を含めた在籍者総数となっている。(図表 6)

＜図表 6＞2012 年 5 月時点での在学者数

	調査数	合計
大学（学部）	652	1,293,762
大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	18	2,922
短期大学	24	12,973
高等専門学校	38	36,047
高等学校	49	42,924

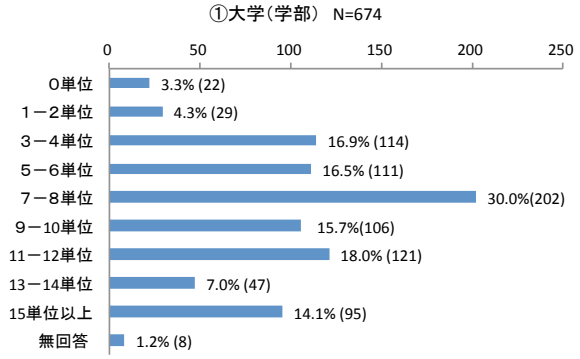
7　大学・高校教育における外国語学習のウェイト

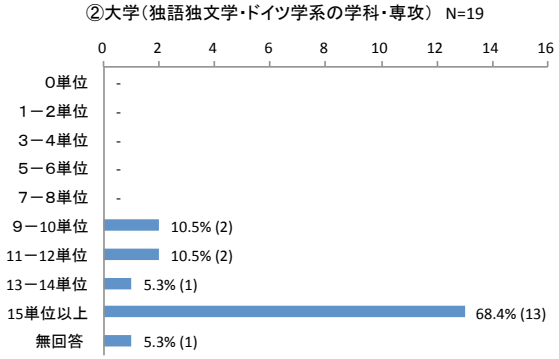
（1）卒業に最低必要な外国語の総単位数

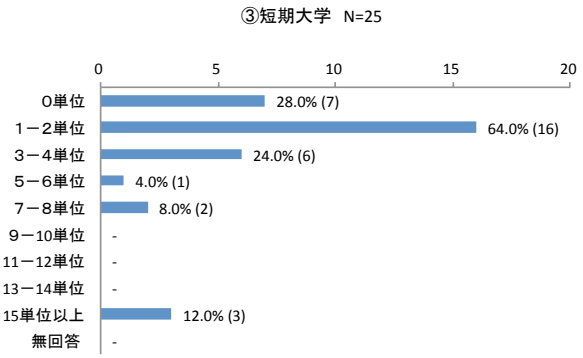
問５　あなたの所属する機関では、卒業に最低必要な外国語の総単位数は何単位ですか。専攻等によって事情が異なる場合、あてはまるものすべてに○をつけてください。

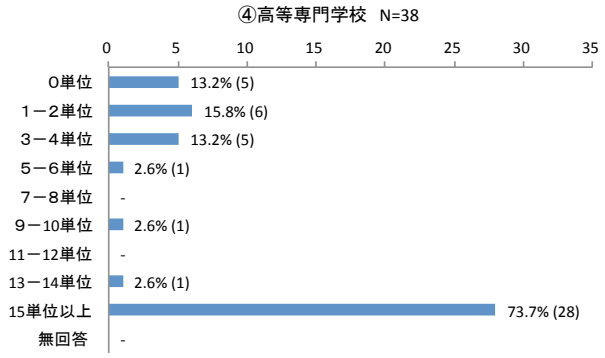
卒業に最低必要な外国語の総単位数は、大学（学部）では「7-8 単位」が 30.0%で最も多く、次いで「11-12 単位」となっている。なお、大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻）の場合は、いわゆる「外国語」の単位だけでなく専門科目の単位として設置されているドイツ語科目も含めた数となっている。（図表 7-1 ①～⑤）

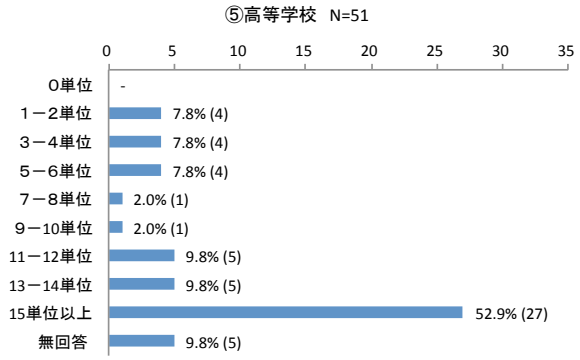
＜図表 7-1＞卒業に最低必要な外国語の総単位数











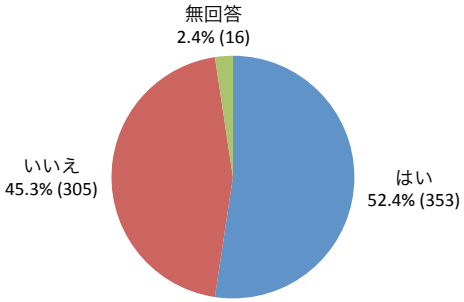
（２）複数の外国語履修の義務づけの有無

問６　あなたの所属する機関では、卒業要件として複数の外国語の履修が義務づけられていますか。

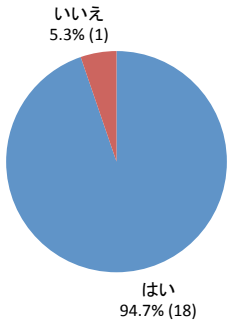
卒業要件として複数の外国語の履修が義務づけられているかについて、「はい」（義務づけられている）と回答したのは、独語・独文系の学科を除く大学（学部）では 52.4%、短期大学では 16.0%、高等専門学校では 47.4%、高等学校では 27.5%であった。（図表 7-2 ①～⑤）

＜図表 7-2＞複数の外国語履修の義務づけの有無

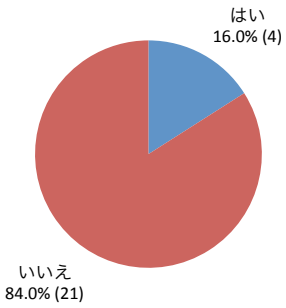
①大学（学部） N=674



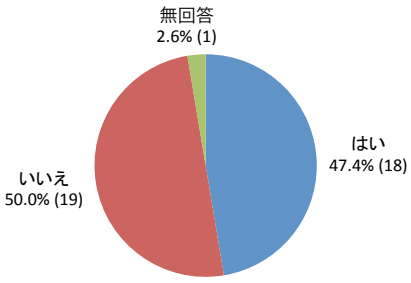
②大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻） N=19



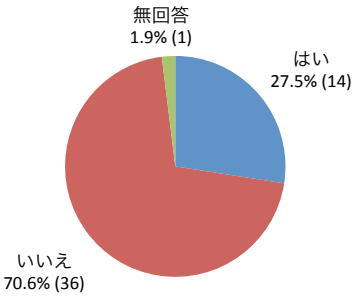
③短期大学 N=25



④高等専門学校 N=38



⑤高等学校 N=51



８　開講されている外国語科目

（１）履修可能な外国語科目

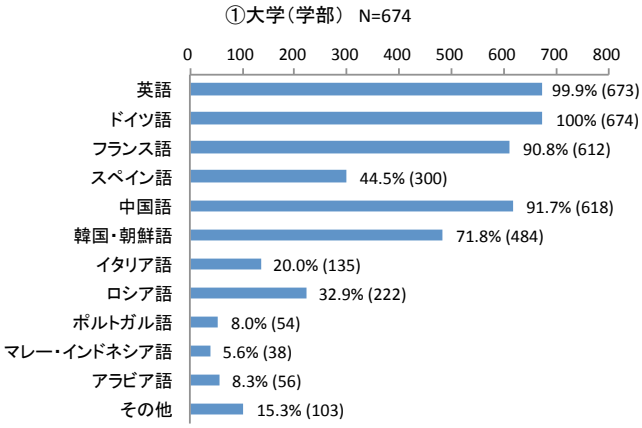
問７　あなたの所属する機関では、学生が履修することのできる外国語科目として、どのような科目が開講されていますか。開講されているものすべてに○をつけてください。

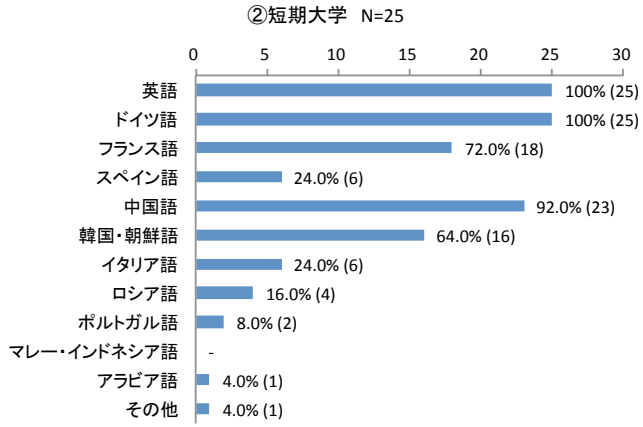
＊問１で「２　大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻）」と回答した方は、この質問を飛ばして問９へ進んでください。

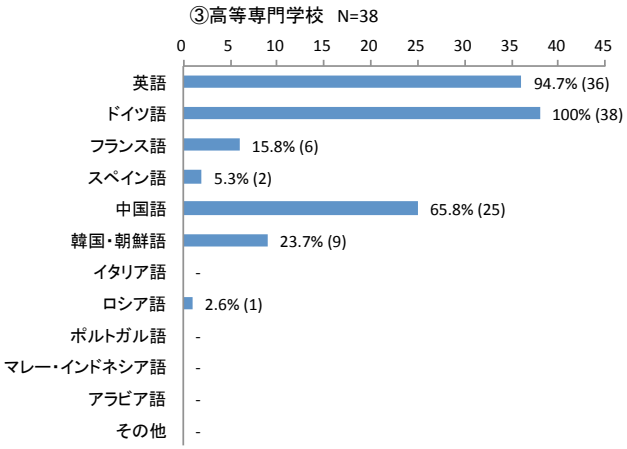
この質問では、大学の場合、回答者の所属する大学に外国語教育センターなど全学のドイツ語授業を統括している組織があり、その組織の提供科目を学生に履修させるシステムとなっている場合は、これらの科目も「学生が履修することのできる外国語科目」とみなして回答していただいた。なお、回答者の所属以外の学部や他機関で開講されている外国語科目を「自由科目」等として履修できるような場合は、この質問で問われている外国語科目には該当しないものとして回答していただいている。(ただし、本アンケートはドイツ語の開講されている教育機関のみを対象にしたものであり、全国すべての教育機関に占める割合ではないことに留意されたい。)

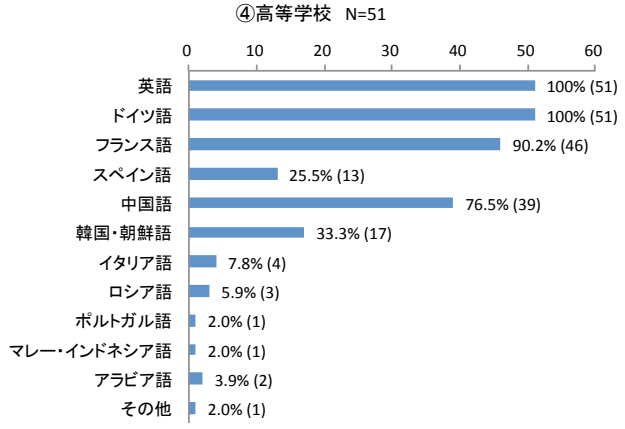
結果は、大学（学部）では、英語が 99.9%、フランス語が 90.8%、中国語が 91.7%、韓国・朝鮮語が 71.8%、などとなっている。ドイツ語が開講されている場合には、高等専門学校を除くすべての教育機関において、英語以外にフランス語と中国語が開講されているケースが多い。一方、高等専門学校においては他の教育機関と比較してフランス語が開講されている割合が少なく、15.8%となっている。(図表 8-1 ①～④)

＜図表 8-1＞履修可能な外国語科目









（2）各外国語科目の合計履修者数

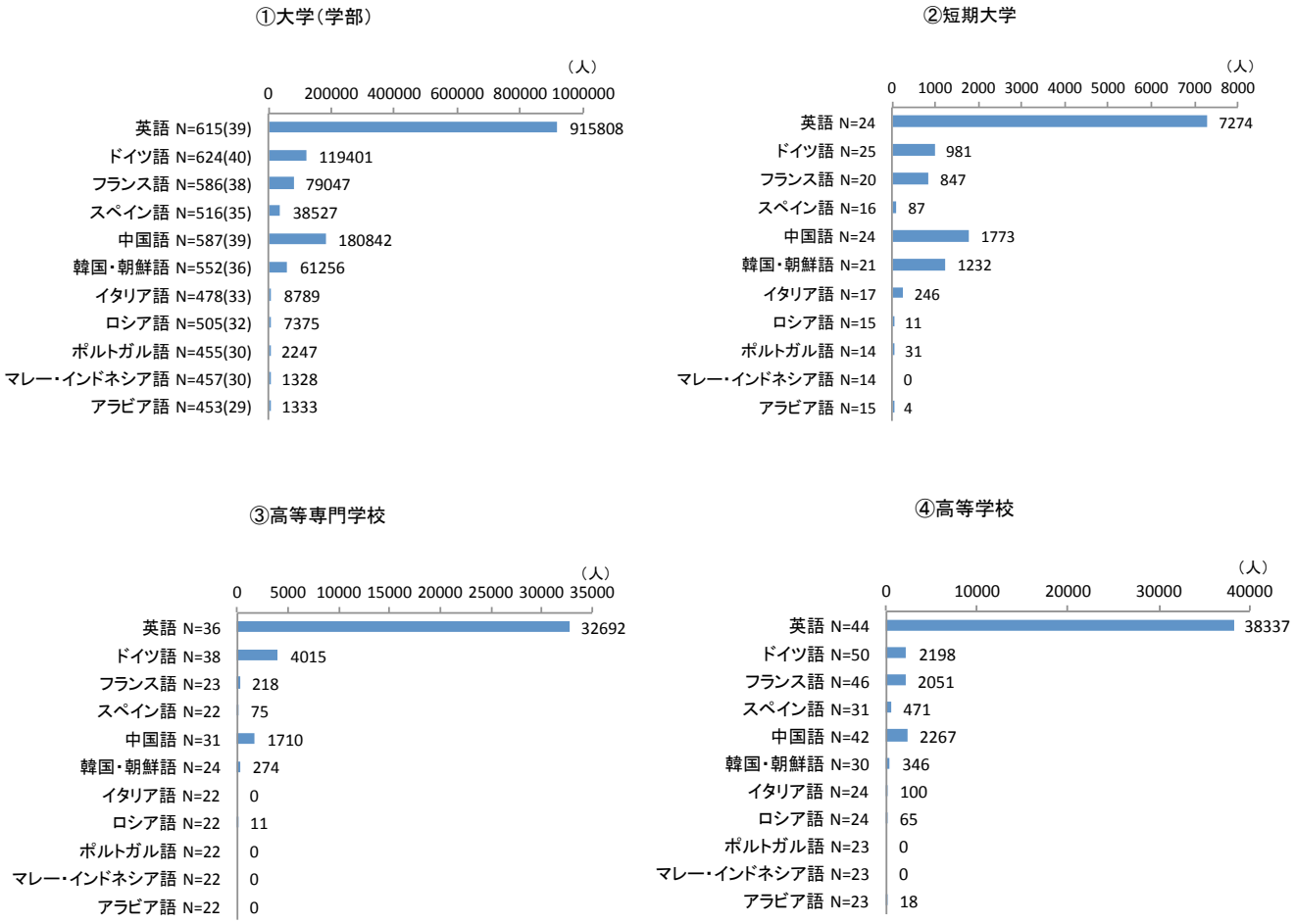
問８　あなたの所属する機関における各外国語科目の合計履修者数は何名ですか。2012 年 5 月の時点（履修者数が確定した時点）での人数をお答えください。

各外国語科目の合計履修者数は、2012 年 5 月の時点（履修者数が確定した時点）での人数を、できる限り実数で回答していただいた。大学（学部）の場合は、当該学部に属する学生の履修者数を回答していただいている。ただし、実数での把握が難しい場合は、延べ人数で回答していただいた。この数字は、全在学者数に占めるドイツ語履修者数の割合から全国のドイツ語履修者数を推計するための基礎データを得るため、また、その他の外国語との数の比較を行うために問うたものである。

結果のうち、ドイツ語の履修者数についてみると、回答のあった教育機関のドイツ語履修者の合計数は、大学（学部）は 119,401 人、短期大学は 981 人、高等専門学校は 4,015 人、高等学校は 2,198 人、合計で 126,595 人となっている。（図表 8-2 ①～④）

＜図表 8-2＞各外国語科目の合計履修者数

※調査数（N）の括弧内の数字は、大学またはキャンパス単位で回答のあった件数



９　ドイツ語科目について

（１）レベル別ドイツ語クラス数

問９　開講されているドイツ語科目のクラス数はどれくらいですか。所属機関における数をレベルごとに週当たりの実施回数に分けて、それぞれにつき 2012 年 5 月時点のカリキュラムでお答えください。

開講されているドイツ語科目のクラス数を、レベル別に回答していただいた。「レベル」は、授業開始時点で、履修者のこれまでの授業における学習時間の合計が 60 時間未満の場合には「初級 I」、60 時間以上 120 時間未満の場合には「初級 II」、120 時間以上 240 時間未満の場合には「中級」、240 時間以上の場合には「上級」と考えて回答していただいた。（学習時間の計算例は下記参照）

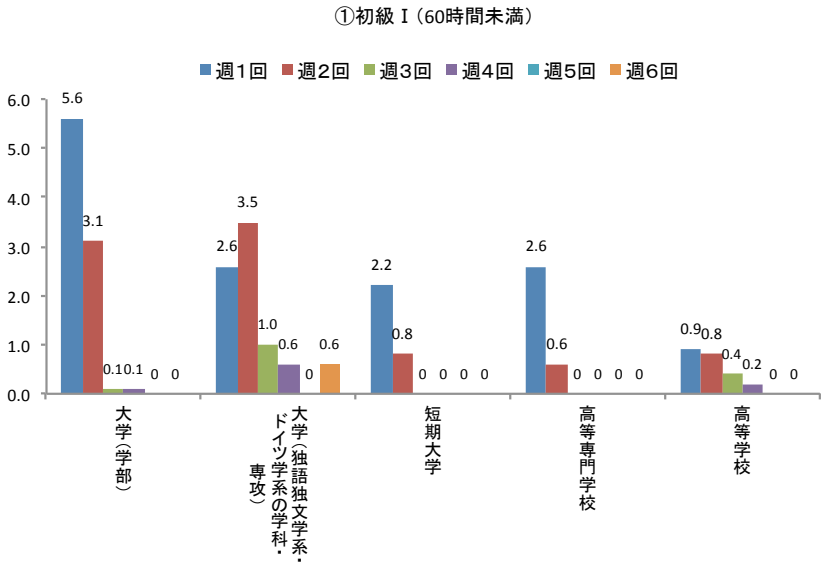
学習時間の合計（既習時間）の計算例：
90 分授業が週 2 回で半期 15 週の場合：1.5 時間 ×2 回 ×15 週 ＝ 45 時間
90 分授業が週 2 回で通年 30 週の場合：1.5 時間 ×2 回 ×30 週 ＝ 90 時間

なお、大学（学部）の場合は、回答者の所属する学部の学生を対象（あるいは対象の一部）として開講されているクラスの数を回答していただいている。また、ドイツ語科目が学部横断的に開講されている場合は、当該学部に属する学生が履修することのできるクラス数を回答していただいた。

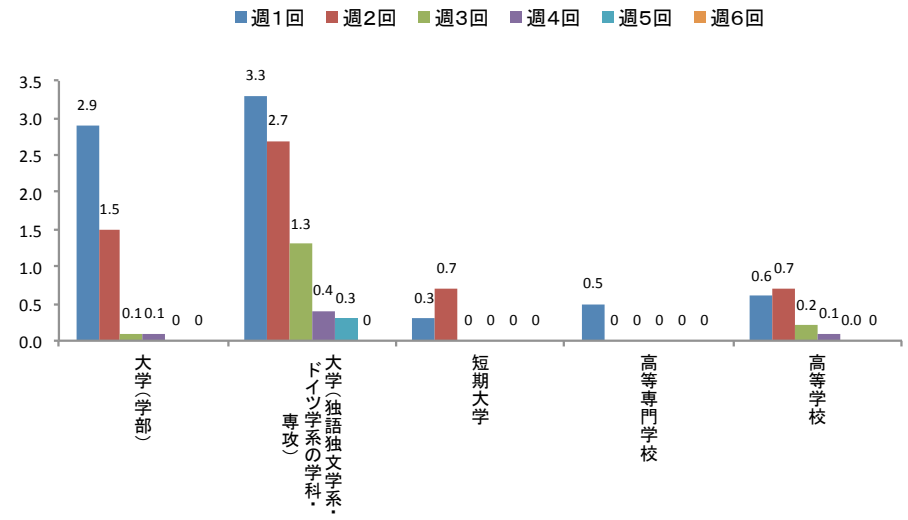
結果のうち、大学（学部）についてみると、「初級 I」は「週 1 回」が平均 5.6 クラス、「初級 II」は「週 1 回」が平均 2.9 クラス、「中級」は「週 1 回」が平均 1.7 クラス、「上級」が「週 1 回」で平均 0.9 クラスと、同一の科目では「週 1 回」のクラスがいずれのレベルにおいても最も多く開講されており、「週 3 回」以上のクラスはきわめて少ない。ただし、「週 1 回」のクラス数が一番多いということが、必ずしも、学生の多くが週 1 回だけドイツ語を学んでいるということを意味するわけではない。たとえば「初級 I」や「初級 II」の学習者が、週 1 回の科目を 2 科目履修しているケースでは、当該科目がそれぞれ独立した科目であるので、「週 1 回」「2 クラス」とカウントされるためである。

大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）では、「初級 I」「初級 II」のみならず「中級」「上級」クラスも多く開講されているが、一方で短期大学、高等専門学校、高等学校では「中級」「上級」クラスはほとんど開講されていない。（図表 9-1 ①～④）

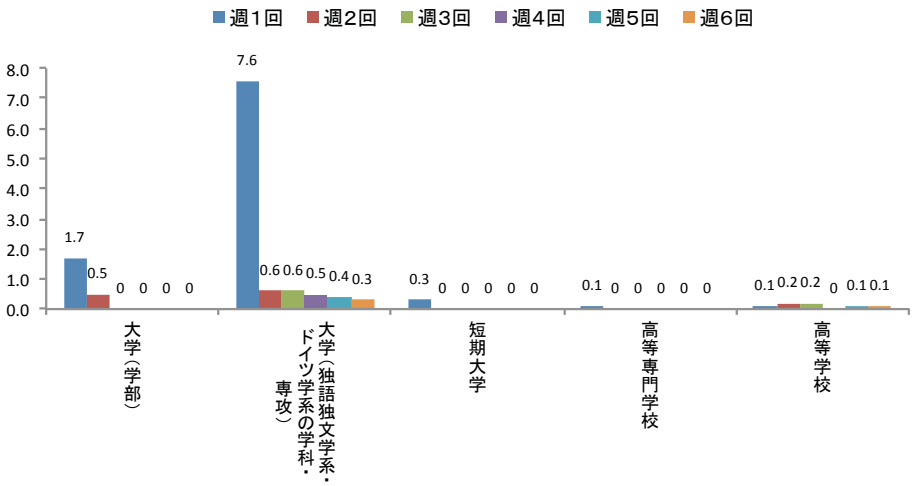
＜図表 9-1＞開講されているドイツ語科目のクラス数（平均）



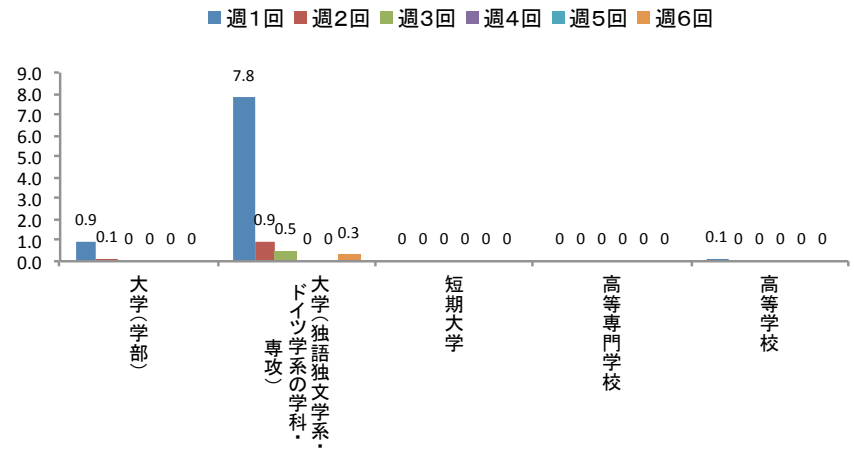
②初級Ⅱ（60時間以上120時間未満）



③中級（120時間以上240時間未満）



④上級（240時間以上）



（2）レベル別ドイツ語履修者数

問 10　あなたの所属する機関におけるドイツ語履修者数は何名ですか。レベルごとに、2012 年 5 月の時点（履修者数が確定した時点）での人数をお答えください。レベルの目安は、問 9 で示した定義にしたがうものとします。

レベル別のドイツ語履修者数を、問 9 と同じレベル定義に基づき、2012 年 5 月の時点（履修者数が確定した時点）での人数をご回答いただいた。なお、大学（学部）の場合は、当該学部に属する学生のドイツ語履修者数を回答していただいている。

各教育機関におけるドイツ語履修者のレベル別合計数をみると、「初級 I」は 90,407 人、「初級 II」は 25,572 人、「中級」は 9,189 人、「上級」が 2,743 人と、「初級 I」レベルの学習者が圧倒的に多く、「中級」以上のドイツ語履修者はそれに比して少ない数字となっている。（図表 9-2）

＜図表 9-2＞レベル別ドイツ語履修者数（上段網かけ部分は調査数、下段は履修者数を表す）
※調査数の括弧内の数字は、大学またはキャンパス単位で回答のあった件数

	大学（学部）	大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）	短期大学	高等専門学校	高等学校	総計
初級 I （60 時間未満）	587(38)	16	23	36	48	-
	83,474	1,078	739	3,770	1,346	90,407
初級 II（60 時間以上 120 時間未満）	510(36)	14	13	26	38	-
	23,133	1,384	67	332	656	25,572
中級（120 時間以上 240 時間未満）	442(32)	16	10	21	30	-
	6,945	1,985	1	31	227	9,189
上級（240 時間以上）	418(29)	15	10	21	27	-
	1,613	1,109	0	0	21	2,743

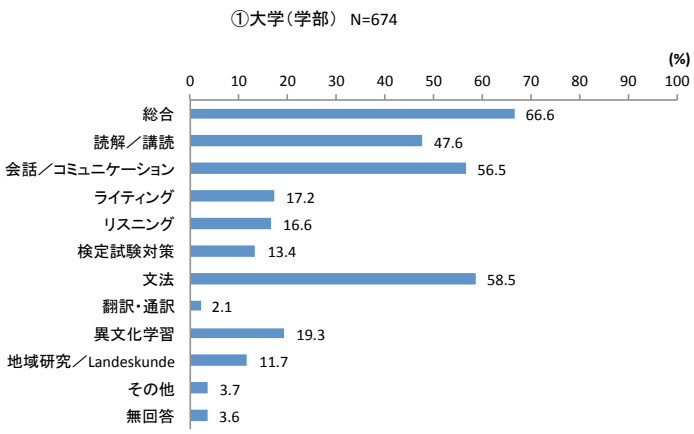
（3）開講されているドイツ語科目の種類

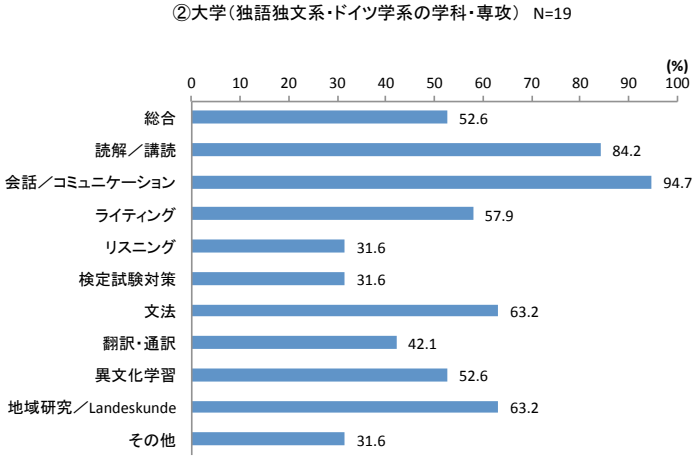
問 11　開講されているドイツ語科目の種類は何ですか。（複数回答可）

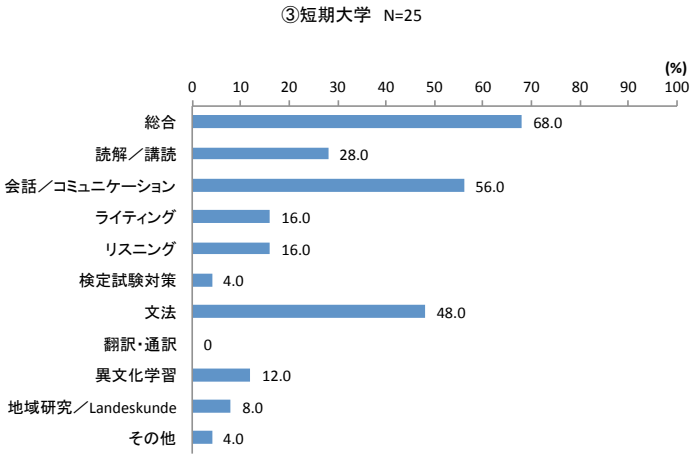
開講されているドイツ語科目の種類を、科目名称ではなく、当該科目の内容上の重点に基づいて回答していただいた。ただし、ここでいう「ドイツ語科目」はいわゆる「ドイツ語の授業」を指し、ドイツ語圏文化について日本語で講義するような科目は含まないものとしてご回答いただいた。

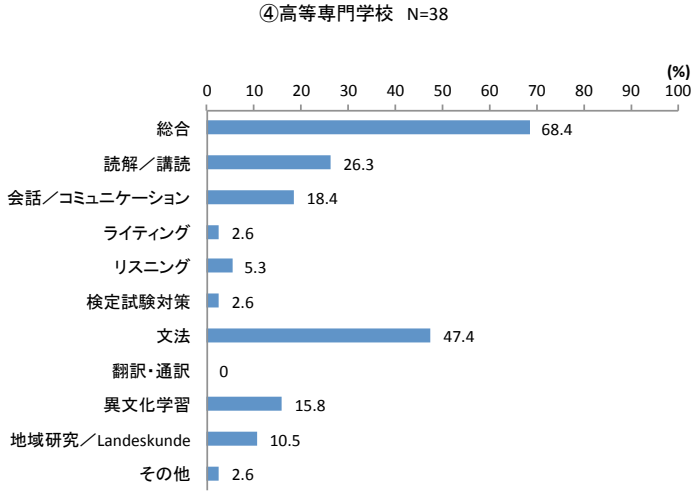
結果のうち、最も多かった科目をみると、大学（学部）では「総合」（66.6%）、「文法」（58.5%）、「会話／コミュニケーション」（56.5%）の順、大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）では「会話／コミュニケーション」（94.7%）、「読解／講読」（84.2%）、「文法」（63.2%）、「地域研究／Landeskunde」（63.2%）の順、短期大学では「総合」（68.0%）、「会話／コミュニケーション」（56.0%）、「文法」（48.0%）の順、高等専門学校では「総合」（68.4%）、「文法」（47.4%）、「読解／講読」（26.3%）の順、高等学校では「総合」（82.4%）、「会話／コミュニケーション」（31.4%）、「文法」（19.6%）の順、となっており、独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻を除いては、いずれも「総合」「文法」「会話／コミュニケーション」が比較的多く開講されている。（図表 9-3 ①～⑤）

＜図表 9-3＞開講されているドイツ語科目の種類

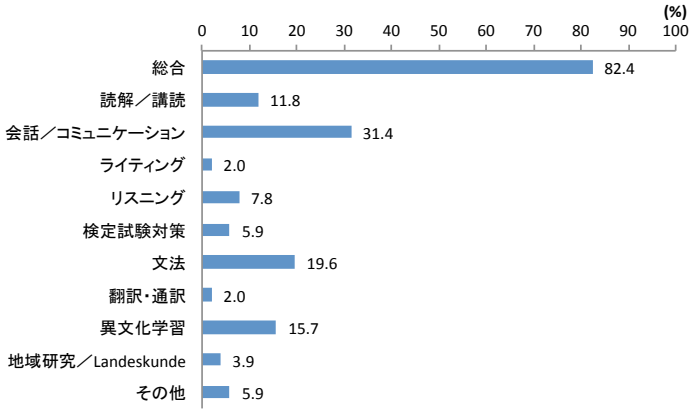








⑤高等学校　N=51


(%)
0
10
20
30
40
50
60
70
80
90
100
総合
82.4
読解／講読
11.8
会話／コミュニケーション
31.4
ライティング
2.0
リスニング
7.8
検定試験対策
5.9
文法
19.6
翻訳・通訳
2.0
異文化学習
15.7
地域研究／Landeskunde
3.9
その他
5.9

（4）授業で利用可能な機器・環境として用意されているもの

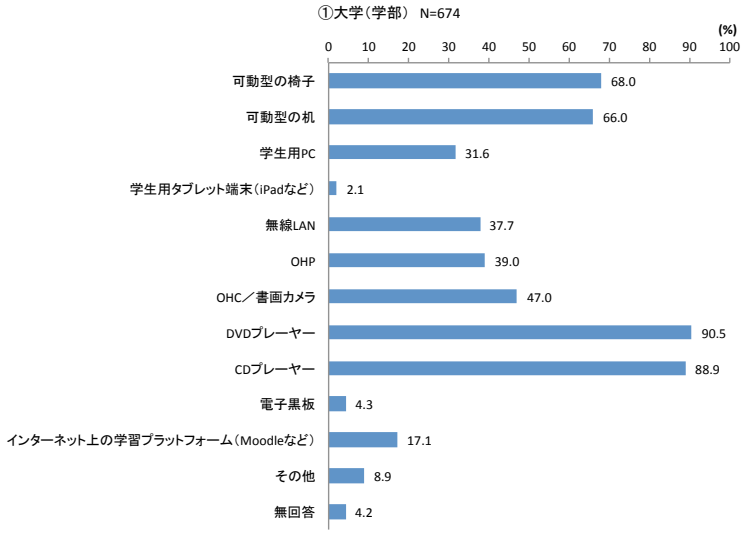
問 12　ドイツ語の授業で利用可能な機器・環境として、どのようなものが用意されていますか。

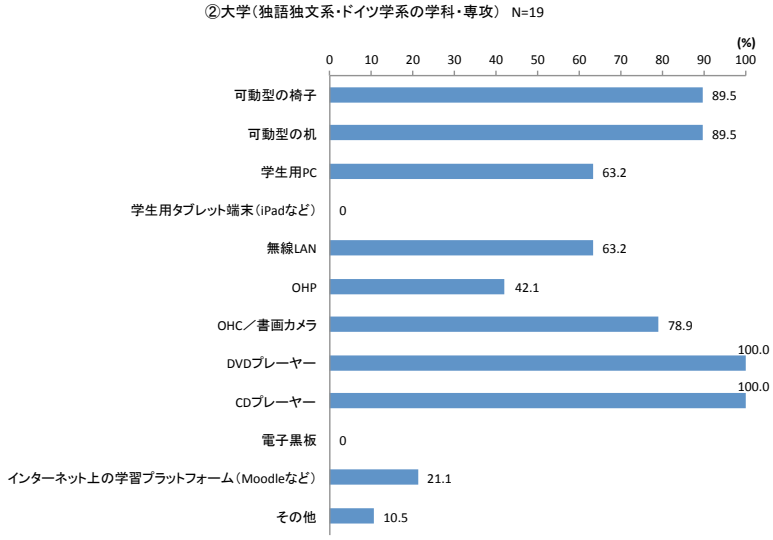
この質問では、すべての教室に当該の機器・設備が備えられていなくても、そうした機器・設備を使用できる部屋がドイツ語の授業で使用可能であれば、用意されているものとして回答していただいた。

結果は、従来から用いられてきた「可動型の椅子」「可動型の机」「DVD プレーヤー」「CD プレーヤー」については、どの教育機関でも利用可能である割合が比較的高い。その一方で、新しい学習用ツールである「学生用タブレット端末（iPad など）」や「無線 LAN」「インターネット上の学習プラットフォーム（Moodle など）」などは利用可能である割合が低くなっている。

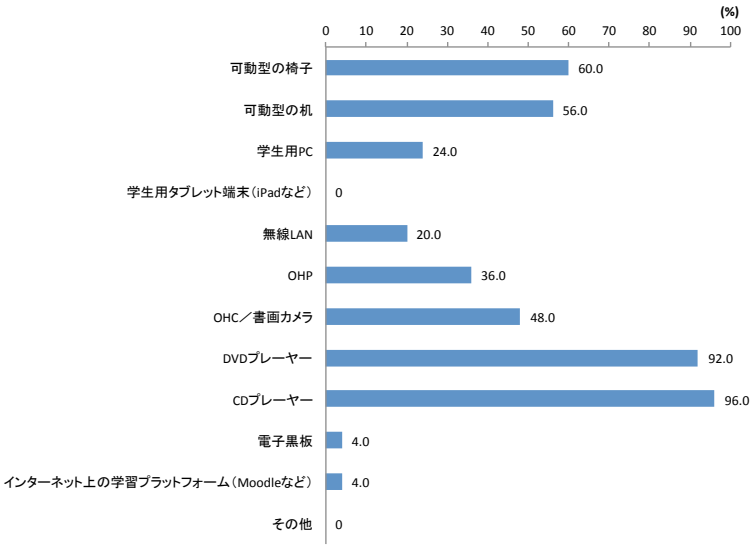
比較的利用可能な割合の高い機器・環境のうち、「可動型の椅子」「可動型の机」については、大学（学部）では 7 割弱（68.0%、66.0%）、大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻）では 9 割弱（いずれも 89.5%）が利用可能であるのに対し、短期大学・高等学校は 6 割弱（短期大学 60.0%、56.0%、高等学校 58.8%、54.9%）、高等専門学校では 4 割程度（42.1%, 39.5%）に留まっている。「CD プレーヤー」については、すべてのグループで 8 割以上が利用可能だが、「DVD プレーヤー」については、大学（学部）、大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻）、短期大学は 9 割以上で利用可能であるのに対し、高等専門学校、高等学校は 7 割程度である。（図表 9-4 ①～⑤）

＜図表 9-4＞授業で利用可能な機器・環境として用意されているもの

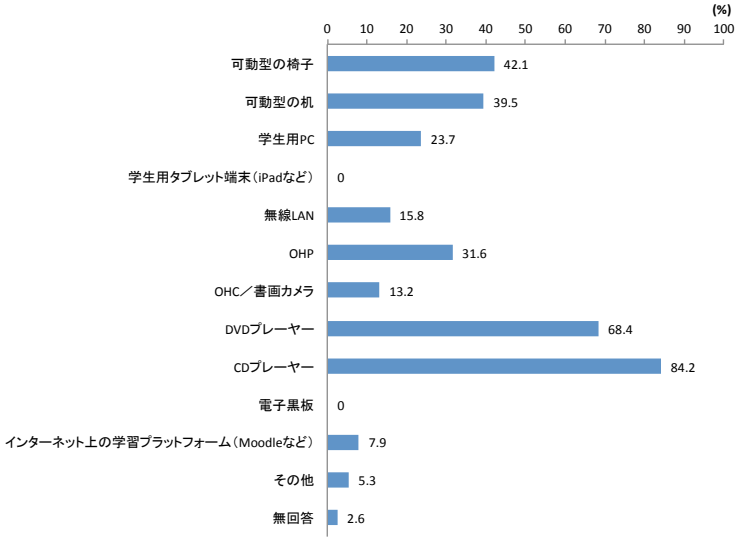




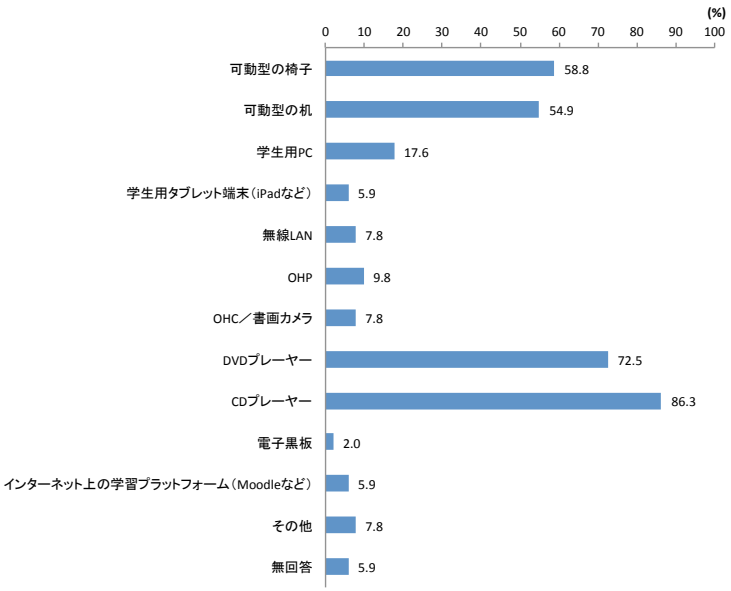
③短期大学　N=25



④高等専門学校　N=38



⑤高等学校　N=51

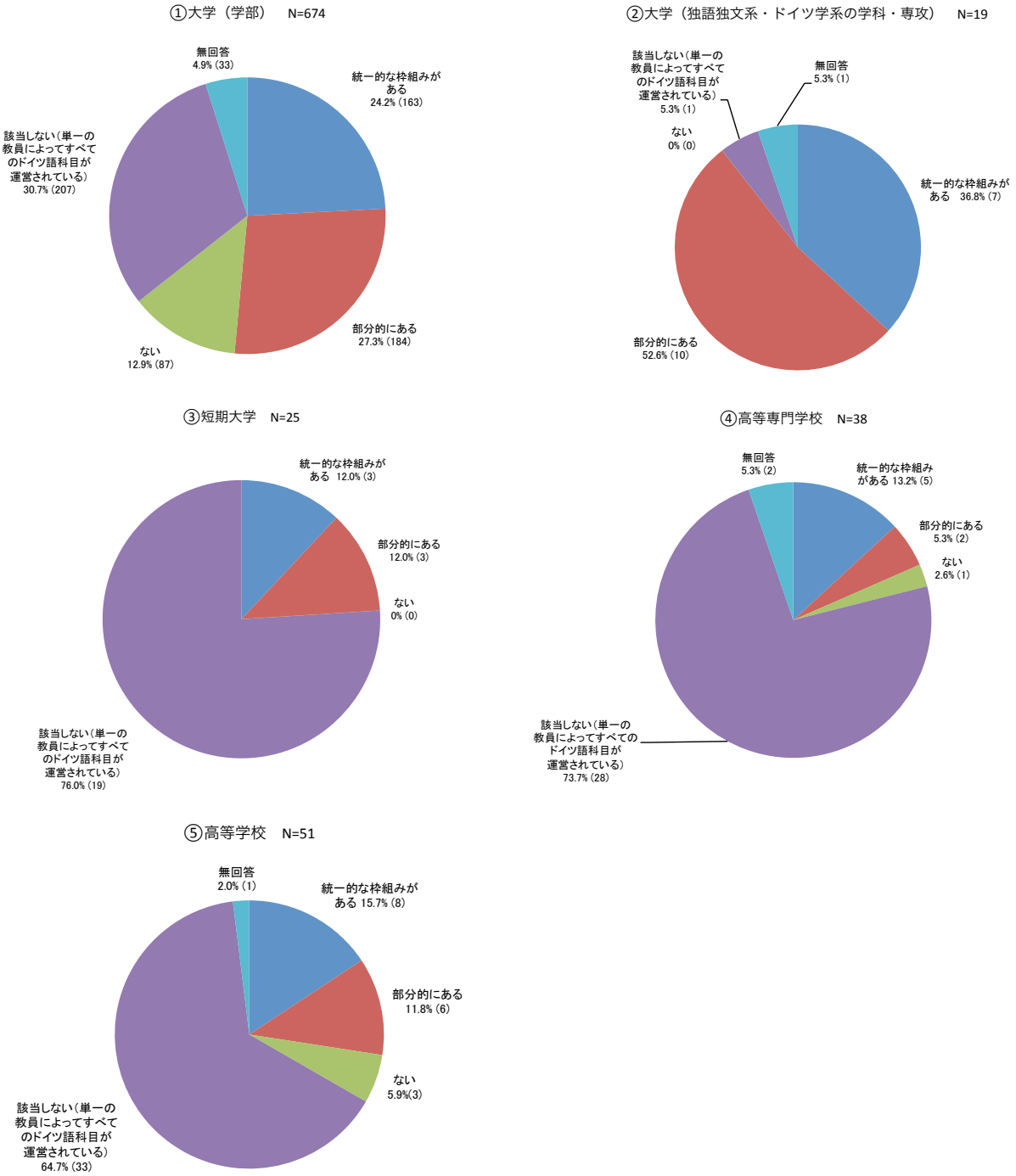


（５）授業の到達目標や教授法などに関する共通枠組みの設定

問 13　複数の教員によって運営されているドイツ語科目に関して、授業の到達目標や教授法などについて、教員のあいだで共通の枠組みが設定されていますか。

授業の到達目標や教授法などに関する共通枠組みの設定の有無は、大学（学部）では「統一的な枠組みがある」または「部分的にある」と答えた機関が計 51.5%と半数を超え、大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻）では 9 割弱（89.4%）を占めている。一方、短期大学、高等専門学校、高等学校では、「該当しない（単一の教員によってすべてのドイツ語科目が運営されている）」という回答が多く、その割合は、短期大学は 76.0%、高等専門学校は 73.7%、高等学校では 64.7%、となっている。（図表 9-5 ①～⑤）

＜図表 9-5＞授業の到達目標や教授法などに関する共通枠組みの設定



１０　授業以外のドイツ語学習の機会

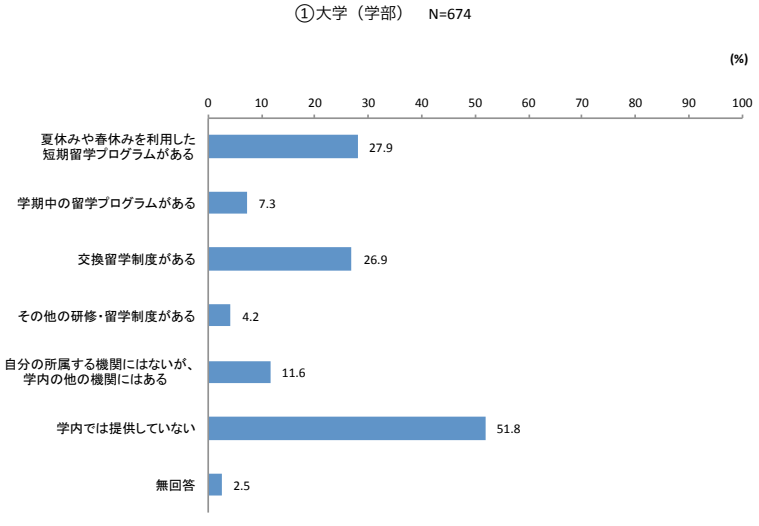
（１）学生の海外ドイツ語研修制度

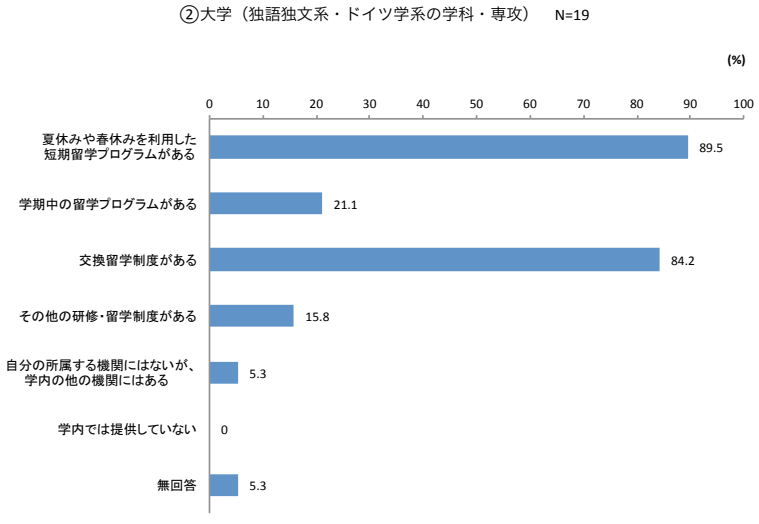
問 14　あなたの所属する機関には、学生が利用できる海外ドイツ語研修制度はありますか。（複数回答可）

ここでは大学及び短期大学の場合、海外ドイツ語研修制度の提供主体が学部単位でなくても当該学部に所属する学生が学内の海外ドイツ語研修制度を利用することができる場合には、「ある」と解して回答していただいた。

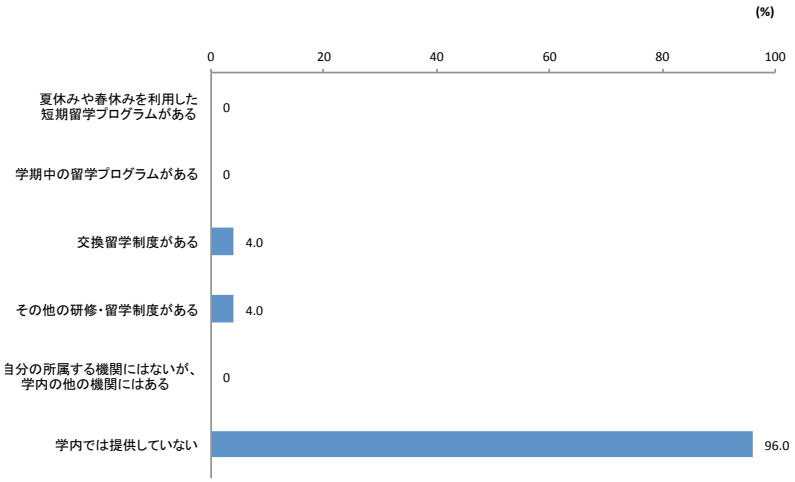
その結果、大学（学部）においては、「夏休みや春休みを利用した短期留学プログラムがある」（27.9%）、「交換留学制度がある」（26.9%）と回答した機関が 4 分の 1 強であるのに対し、短期大学、高等専門学校、高等学校においては「学内では提供していない」と回答した機関が非常に多く、高等学校は 8 割程度（80.4%）、短期大学、高等専門学校では 9 割以上（短期大学 96.0%、高等専門学校 92.1%）となっている。大学（独語独文系・ドイツ学系の学科専攻）では、夏休みや春休みを利用した短期留学プログラム、交換留学のいずれも 8 割以上の機関が制度を設けている（短期留学プログラム 89.5%、交換留学制度 84.2%）（図表 10-1 ①～⑤）

＜図表 10-1＞学生の海外ドイツ語研修制度

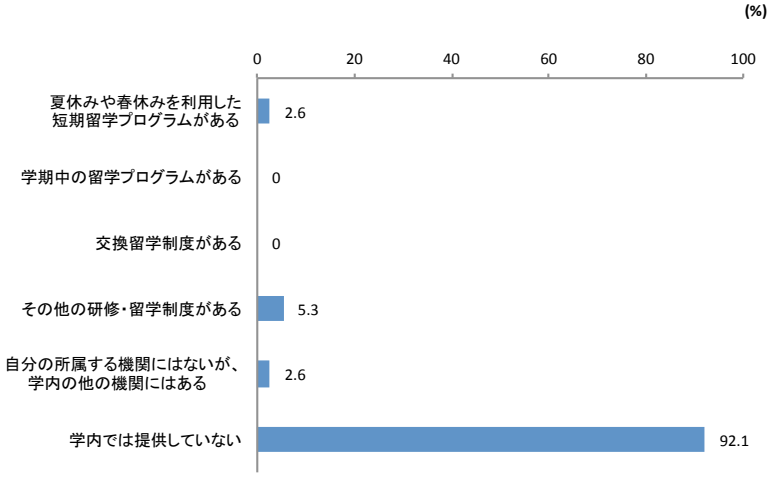




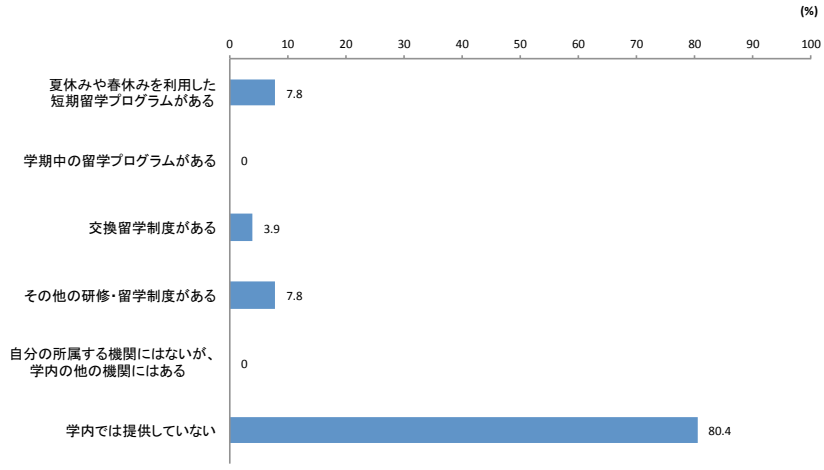
③短期大学　N=25



④高等専門学校　N=38



⑤高等学校　N=51



（2）海外でのドイツ語学習の単位認定

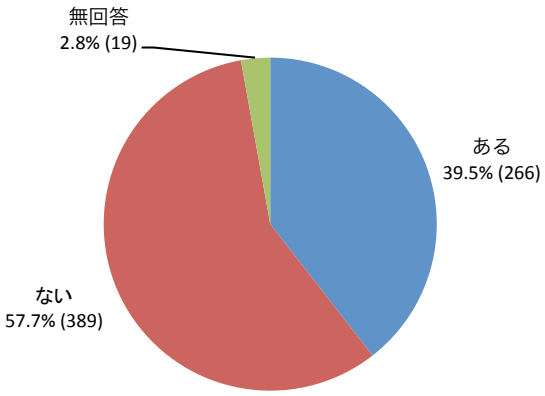
問 15　組織として、海外でのドイツ語学習を単位として認める制度がありますか。

この質問では、学生の海外でのドイツ語学習を、教員が個人で便宜的に単位として認めるのではなく、学部や学科、学校など組織として正式に単位として認める制度があるかどうかを問うた。

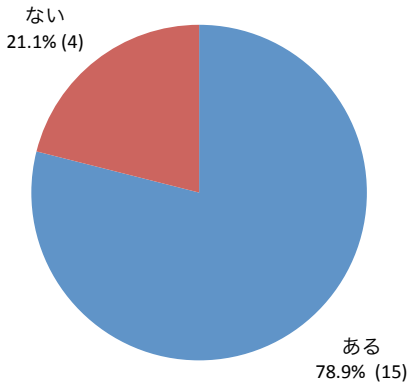
結果、「ある」と回答した機関は、大学は 39.5%、短期大学は 24.0%、高等専門学校は 7.9%、高等学校は 17.6%となっている。（図表 10-2 ①～⑤）

＜図表 10-2＞海外でのドイツ語学習の単位認定

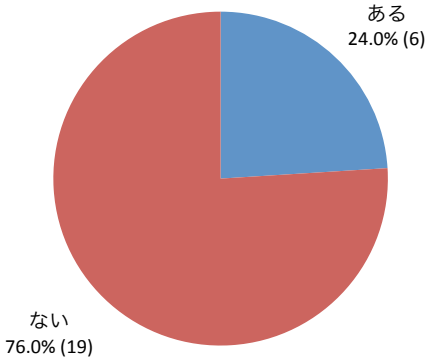
①大学（学部） N=674



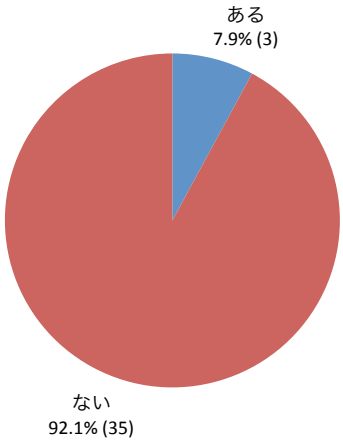
②大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻） N=19



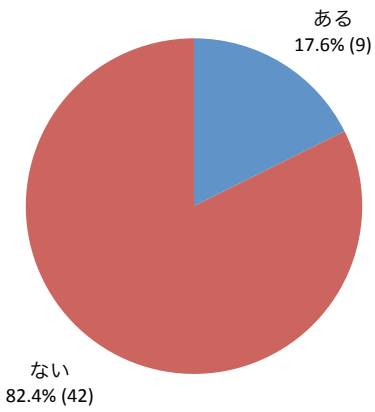
③短期大学 N=25



④高等専門学校 N=38



⑤高等学校 N=51



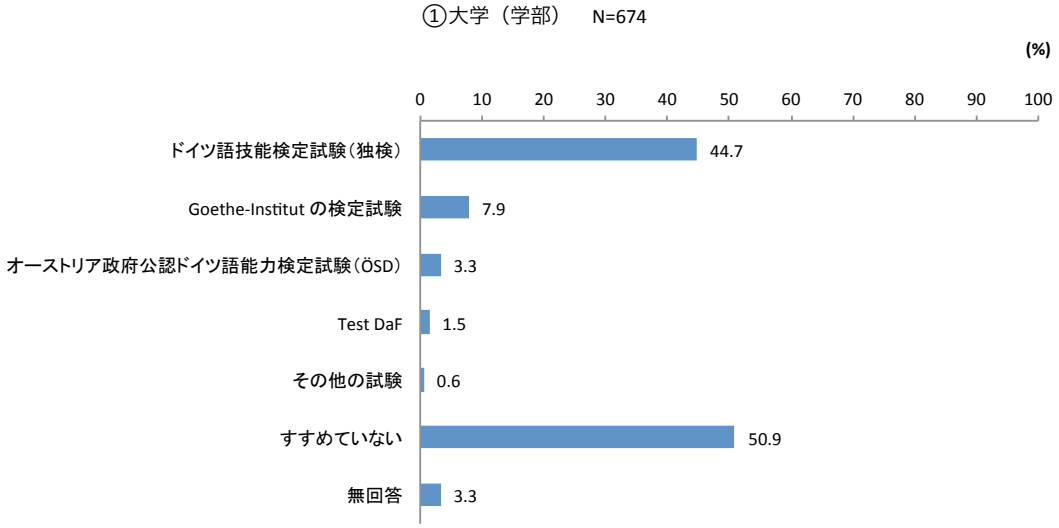
（3）推奨している学外のドイツ語検定試験

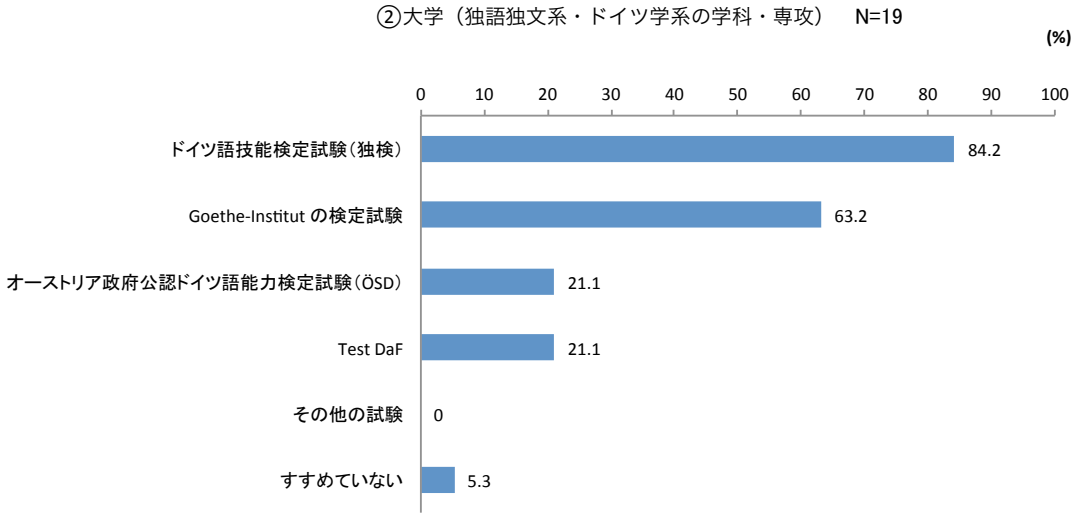
問 16　組織として、学外のドイツ語検定試験の受験をすすめていますか。すすめている場合、どの試験をすすめていますか。（複数回答可）

ここでは、学外のドイツ語検定試験の受験を、問 15 と同様、教員個人としてではなく、学部や学科、学校など組織としてすすめているかどうかをを基準に回答していただいた。

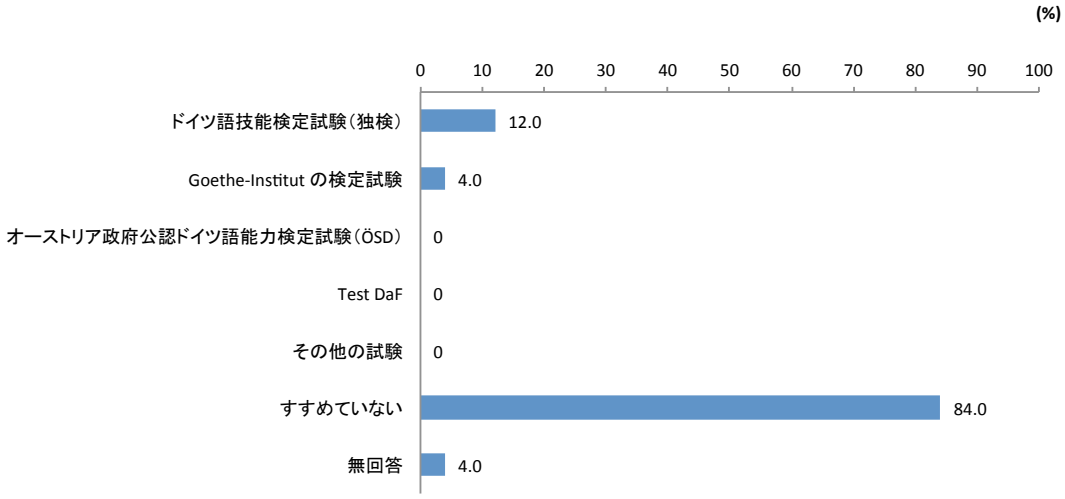
その結果、「ドイツ語技能検定試験（独検）」は、他の試験と比べ、どの教育機関においても最もよく推奨されているのに対し、「Goethe-Institut の検定試験」や「オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）」といったヨーロッパ言語共通参照枠に基づく試験は、独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻を除き、組織として推奨されることが少ないようである。（図表 10-3 ①～⑤）

＜図表 10-3＞推奨している学外のドイツ語検定試験

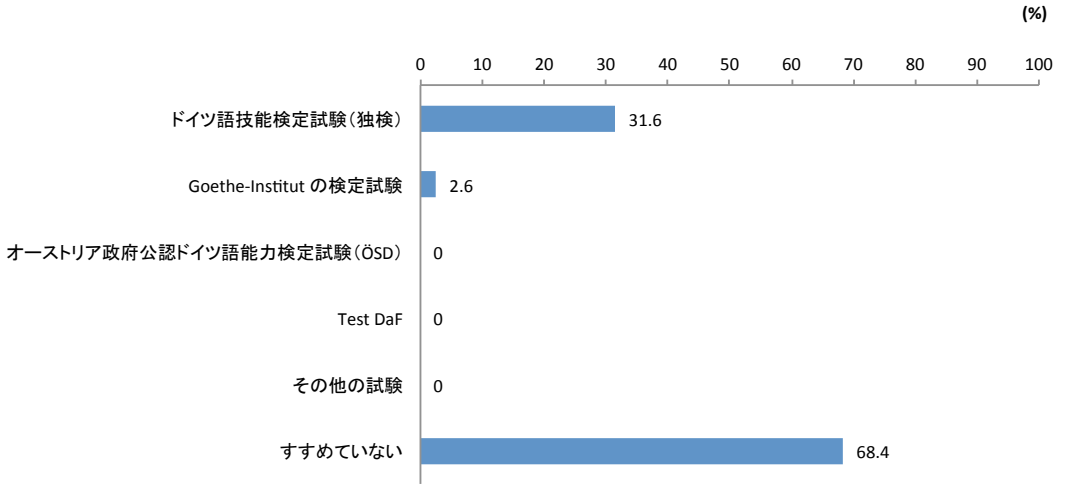




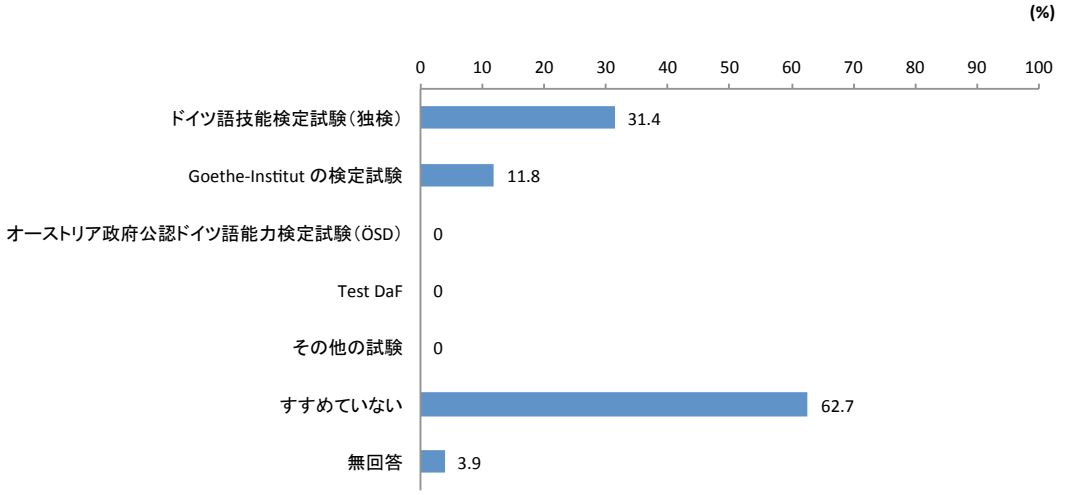
③短期大学　N=25



④高等専門学校　N=38



⑤高等学校　N=51



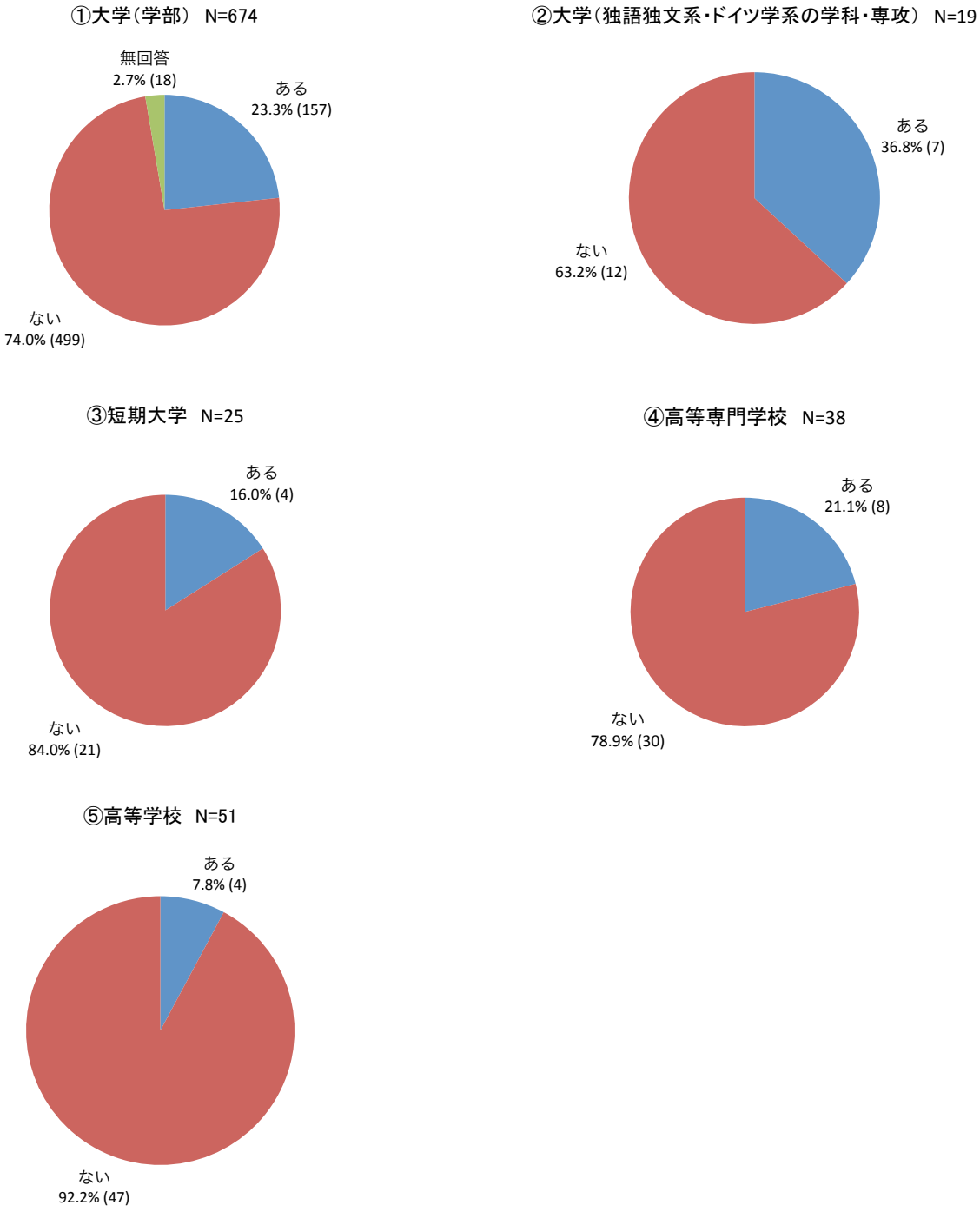
（4）学外のドイツ語検定の単位認定

問 17　組織として、学外のドイツ語検定試験合格を単位として認める制度がありますか。

この質問では、学外のドイツ語検定試験合格を、引き続き問 15 と同様、教員が個人で便宜的に単位として認めるのではなく、学部や学科、学校など組織として正式に単位として認める制度があるかどうかを問うた。

結果、独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻を除き、「ある」と回答した機関はいずれの学校種別においても 4 分の 1 以下である。（図表 10-4 ①～⑤）

＜図表 10-4＞学外のドイツ語検定の単位認定



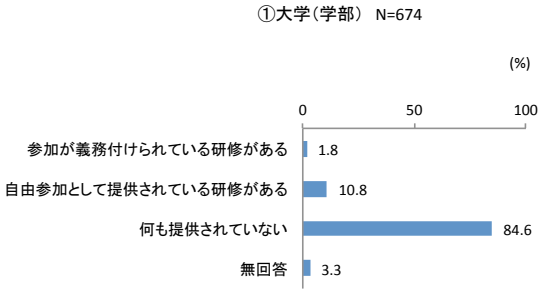
１１　ドイツ語教員の研修制度

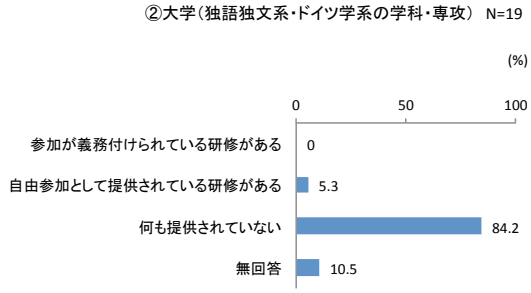
問 18　あなたの所属する機関では、教員に対して、外国語教育に関する研修を受ける機会が提供されていますか。（複数回答可）

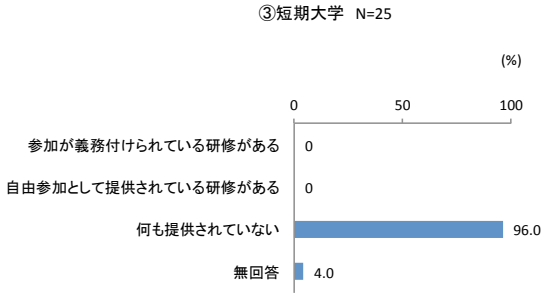
この質問では、FD 研修会なども「外国語教育に関する研修」に該当するものとして回答していただいた。

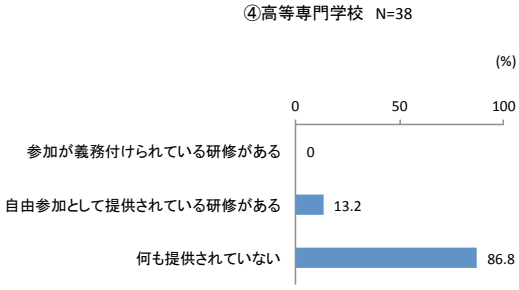
結果、「何も提供されていない」と回答した機関は、いずれの学校種別においても 7 割を超えている。（図表 11 ①～⑤）

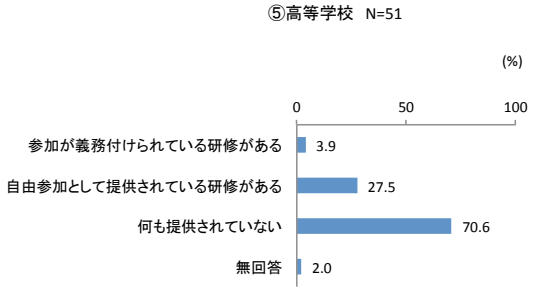
＜図表 11＞ドイツ語教員の研修制度











問 18－１　（問 18 で「１」または「２」と回答した方におたずねします。）
研修の目的や内容をできるだけ具体的に教えてください。

ここでは延べ 97 件（大学については、学部単位で集計）の回答が寄せられた。その中には、ドイツ語教育だけでなく英語教育についての記述も多く見られた。また内容を整理してみると、記述がもっとも多かったのは、在外研究員制度と FD 研修についてであった。

以下に、寄せられた回答の一部を原文のまま、または文意が損なわれない範囲で字句等を修正したうえで、内容別に記載する。

■ 在外研究員制度

○ 長期留学制度（1 年～2 年）、短期留学制度（冬季・夏季休暇利用）、サバティカル制度（1 年間）。
○ 外国語教育の研修に限らないことだが、在外及び国内研究員制度がある。
○ 教授研究能力の向上を目的として、現職のまま国内外の大学又は公的な機関に派遣され、研究に従事することができる。(国内派遣研究期間は 6 ヶ月以内、国外派遣研究期間は 6 ヶ月以上 1 年以内、又は 10 日以上 31 日以内とする。)
○ 研修内容、研修地を自分で設定できる 1 年間の特別研修休暇制度がある。これを利用して、研修期間中に外国語教育に関する研修を受けることが可能。

■ FD 研修会

○ 学部内で FD の一環として教員が授業の事例を紹介する報告会、外部講師を招いての講演会が従来行われている。今後も報告会、講演会等を通して教員の教育活動における自己啓発に資する機会が設けられる予定である。なお、これらの催しはドイツ語ないし外国語教育に特化したものではなく、学部全体が対象となっている。
○ 夏季に学外地での宿泊 FD、冬季に学内 FD と、年に二回 FD 研修を開催し、外国語教育に特化せず、大学あるいは教育のあり方といった大きなテーマについても、教職員が一丸となって、今後の展望を検討している。
○ 初修外国語担当教員に対して、FD を実施している。全体会と分科会に分かれており、ドイツ語担当教員（非常勤講師含む）には、分科会の中で、大学の方針や成績の平準化等についての説明等を行っている。なお、全体会においては、CALL システム等についての説明会等を実施している。
○ ファカルティ・デベロップメントにおいて授業内容・方法の改善を行っている。（未修外国語担当専任教員全員による「未修外国語 FD」が年 1 回行われている。）

■ 各機関が個別に実施している研修会

○ 一般外国語教育センターが特に英語を中心とした教育に関する研修をおこなっており（不定期）、外国語担当の教員は任意で参加できる。
○ 主として英語教員を対象とする研修だが、他の言語を担当する教員も参加できる。外部から講師を招き教授法を具体的に学んだり実践トレーニングを行ったりし、授業をより効果的に行う方法を養成する事を目指している。
○ 外国語教育センターを中心に各々のテーマで講演やワークショップ等を開催している。

■ 研修会に参加する出張費の負担

○ FD 研修会による授業方法の改善を検討。また学外の FD フォーラム等参加には出張旅費を支給。

○ 外国への留学や学会主催の研修に参加する場合、出張（学会出張）の申請ができる。

○ 外国語教育を統括する語学センターの管理する出張費を利用して、教員が各自研修を受けることは可能である。

■ 授業公開等

○ FD 研修会。授業力の向上を目指して、6 月、11 月、2 月に公開授業、分科会、シンポジウム等を実施している。

○ カリキュラムについて議論の後、実際に使用するテキストを用いて、他のドイツ語教員（学生も任意参加）の前で、15 分程の講義を行う。模擬講義終了後、反省会を行い、授業の向上につなげる。

○ ミニ公開授業。討論会。

■ 学内講演会等

○ 外国語教育に関する講演会が、定期的に開催される。

○ 非常勤の先生方を対象とした、各言語の教授法セミナー。国際言語文化センターが提供している、言語教授法・カリキュラム開発研究会（学内・学外からの参加が可能）。

○ 外国語教育を専門とする教員による講演。

■ Goethe-Institut が主催する講座への参加

○ Goethe-Institut の夏期講習。

■ 国内外の語学研修

○ 国内及び国外での語学研修に参加する事は制度として可能である。

○ 個人研究費を使ってドイツの語学校への参加が可能である。

■ 英語の研修会

○ 協定校からの講師派遣により TESOL 講習会を開催している。

○ 英語のクラスにおいて、テキストを統一しているため、そのテキストの効果的な使い方を学ぶワークショップを毎年実施している。

○ 英語で授業をする時の、一般的なガイドラインを説明できる。ロールプレイ形式のワークショップで、英語による授業を経験する。

■ 高等学校の研修

○ Goethe-Institut と高等学校ドイツ語研究会（高独研）共催の研修講座に任意に参加。

○ 県の教育委員会が主催する研修等（英語の教員が対象。ドイツ語はなし）

○ 英語教育に関する研修や学会に希望者が参加できる。

○ 英語授業の方法・実践に関する報告を基にした研究・研修会（授業実践・指導方法のスキルアップを目的とする）。

○　予備校の研修や、高英検（編者注：「高等学校英語研究会」のことと思われる）の行事など。

■　高等専門学校の研修

○　高専ドイツ語教育研究会と Goethe-Institut による研究会で、新しい教授法、教材及び地域研究につき研修する機会がある。

○　高専ドイツ語教員ゼミナール（Goethe-Institut 主催）と高専ドイツ語教育研究会。

○　外地（海外）研修、内地（国内）研修の募集があり、制度としては、これに参加することが可能である。しかし、一般科目担当者が「当たる」ことは少ない。

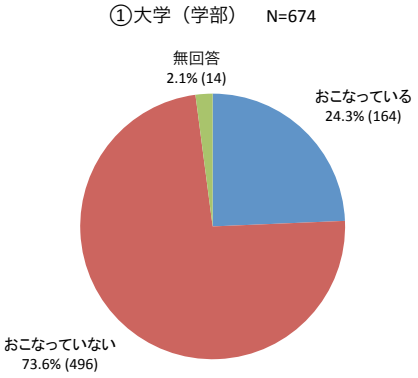
１２　学生に対するドイツ語履修のプロモーション

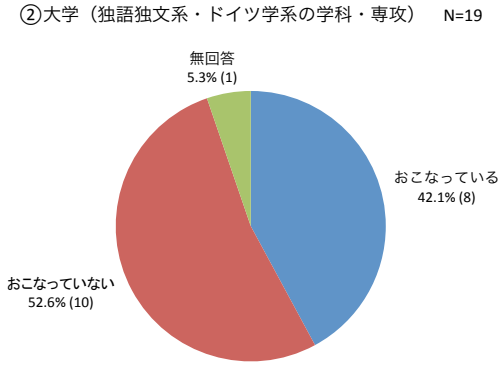
問 19　あなたの所属する機関では、学生の外国語の履修登録に先立ち、学生に対してドイツ語の履修を促すための特別な宣伝活動をおこなっていますか。

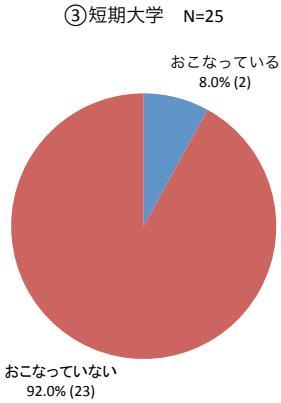
この質問では、ドイツ語履修を促すガイダンスの開催や特別な冊子の配付など、ドイツ語履修者を増やすために特別に行う宣伝活動についてたずねた。

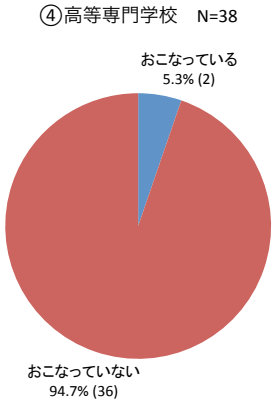
その結果、「おこなっていない」と回答した機関が、独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻を除き、いずれの学校種別においても 7 割を超えている。（図表 12 ①～⑤）

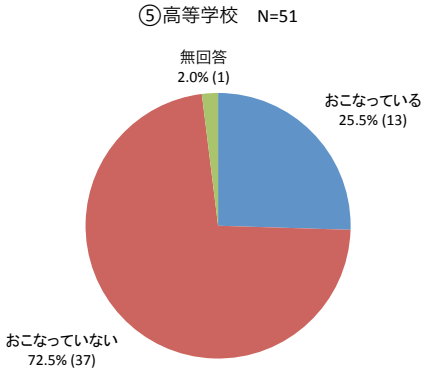
＜図表 12＞学生に対するドイツ語履修のプロモーション











問 19－１　（問 19 で「１　おこなっている」と回答した方におたずねします。）
宣伝活動の内容をできるだけ具体的に教えてください。

学生の履修登録前に、学生に対して行っているドイツ語の履修促進活動について記入していただいたところ、延べ194件（大学については、学部単位で集計）の貴重な回答が寄せられた。

大学からは延べ177件（大学については、学部単位で集計）の回答があり、実施内容を大別すると、「ガイドブック、パンフレット等の配布」「ガイダンス、説明会、相談会等の実施」がもっとも多く、次いで「ホームページ、ポートフォリオ等ネット環境の活用」「模擬授業、体験授業、語学イベント等の実施」に分類される回答が多かった。一方、高等学校からは延べ13件の回答が寄せられ、その大部分は「ガイダンス、説明会、相談会等の実施」に分類される回答であり、その他、「ガイドブック、パンフレット等の配布」「模擬授業、体験授業、語学イベント等の実施」に関する記述が見られた。

以上から、大学では、ガイドブック、パンフレット等の紙媒体の利用と、ガイダンス、説明会等による履修促進活動が中心ではあるが、模擬授業、語学イベント等の体験型の企画やネット環境も宣伝活動に活用されている状況がうかがえる。一方、高等学校では、ガイダンス、説明会、相談会等による履修促進活動が中心である傾向が見て取れる。

以下に、それらの代表的な回答例を原文のまま、または文意が損なわれない範囲で字句等を修正したうえで、内容別に記載する。

■　ガイドブック、パンフレット等の配布

○　新入生に、言語文化科目についての詳しいパンフレットを送り、履修の参考にさせるとともに、各言語がそこで特徴を紹介し、履修を促している。1年次の修了時点で、2年次以降で受講できる、応用ドイツ語クラスの特徴を記したチャート表を配布説明し、各学生の志望にあったクラスを履修出来るよう案内している。

○　新入生に対しては選択できる第二外国語の特徴を記したプリントを送付している。ドイツ語もその中に含まれる。在校生に対してはさらに複数年のドイツ語履修を促す為英語を含めた外国語の履修モデルを提示し、また授業内容を記したプリントを（シラバスとは別に）配布している。

○　ワールドランゲージセンターが毎春新入生用に発行するガイドブックの中に第二外国語主要言語の紹介ページがあり、約600字程度のアピールができる。

○　入学手続関係書類と共に初習外国語履修申請の参考として「入学後に履修する外国語科目の履修案内」（冊子）を送付し、詳細を説明している。

○　初習外国語当該国の言語・文化・歴史・社会等を紹介するパンフレットを作成し、外国語選択の際の参考に供している。

○　文学部英語文化学科（ドイツ語・フランス語選択必修）の学生に対して、ドイツ語を使用する職業、ドイツ語に関係の深い職業、あるいは将来どのように役立てることができるかを記載したペーパーを配布している。

■ ガイダンス、説明会、相談会等の実施

○ 入学生に対する履修のガイダンスの時に授業の内容や各クラスの特色、授業の到達レベル、クラス選抜の方法などを説明し、積極的に履習するよう呼びかけている。
○ 授業（前期）開始前に行われる新入生ガイダンスで、外国語紹介のセクションを設け、ドイツ語学習の魅力（芸術とドイツ語の関係、留学先でのドイツ語等）を宣伝している（1年次生）。外国語履修個別相談会で、個別にドイツ語の履修を促している（1, 2年次生）。
○ 言語別のオリエンテーションを実施し、当該言語の学び方や当該言語圏への魅力を伝え、当該言語の学習を促している。
○ 付属校へ訪問し、外国語説明会を2月中旬頃に実施している。
○ 全体ガイダンスのなかで、ドイツ語の魅力について説明する時間を設けている。ドイツの科学技術の卓越性、学術研究の水準の高さ、そしてドイツ語を学ぶ機会がもう大学くらいしかないという点を強調している。
○ 履修相談室を4月のガイダンス期間に行っている。ただし、1年次生の必修科目登録の前に特別な語学履修ガイダンスは行っていない。
○ 入学時における新入生合宿の際に、上級生によるプレゼンを通じて、宣伝活動を実施している。いずれの外国語もこの時に順番に行っている。
○ 年度始め4月の履修登録ガイダンス時に、新1年次生向けに、専用ブースを設けて情宣活動（学生2名＋教員2名）を行っている。
○ 新入生を対象とし、履修登録前の説明会（ガイダンス）を開催している。また、メールによる相談期間も設けている。
○ 1年次の生徒に対して外国語の選択を決定する前に、ホームルームの時間を利用し、各教員3～5分程度で簡単に授業内容の説明を行っている（この活動が始まったのは3年前から）。

■ 模擬授業、体験授業、語学イベント等の実施

○ 一般外国語教育センターが新入生にドイツ語とフランス語の模擬授業を実施しており、当学部の学生も任意に参加している。
○ 現在本高等学校には中等部がある。その3年次生約120名を対象に選択科目として週に1時間で国際理解の為の授業を、1年間第二外国語の教員が順番で行っている。ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語の教員が各クラス6時間各地域の事情を伝えている。これも広い意味での宣伝活動と言えよう。
○ 6月（後期履修登録の頃）にドイツ文化を紹介。5ヶ国がそれぞれ1週間ずつイベントを企画・実施している。
○ オープンスクールで体験授業を開いている（中学生対象）。履修登録前に体験授業を開いている（高1対象）。
○ オープンキャンパスや、高校生、受験生向けの模擬授業でドイツ語を数回教えている。
○ 多言語を体験できる時間を、オリエンテーション期間内に設けている。新入生対象の歓迎イベントを実施。
○ 本学では、1年次生の前期に初習外国語入門という授業があり、英語以外の仏、独、西、中、韓のうち、2言語を週1時間（計2時間）履修することが、必修になっている。この入門の授業での印象

が、その後の初習外国語の履修に、大きな影響を与えているという印象も受けている。

○　「ドイツ週間」という催しものを行い、ドイツ語、ドイツ文化の啓発にも努めている。

■　ホームページ、ポートフォリオ等ネット環境の活用

○　ドイツ語の科目や、留学等を紹介するパンフレットを作成し、学生用のポータルサイトから、閲覧、印刷が出来るようにしている。

○　一般向けに「大学体験Webサイト」上で動画を交えたドイツ語（及び他の外国語）の授業について説明を行っている。

○　大学や学部のホームページで留学したり海外で仕事をしたりしている学生や卒業生を紹介している。

○　インターネットでドイツの大学との交換留学制度とメンター制度（上中級者による初心者への指導)、ドイツ文学読書会について宣伝。

○　オンデマンド・コンテンツの作成（英語以外の外国語科目が共同で行っている)。

■　その他

○　ドイツ語履修を勧めるポスターを多数掲示している。

○　シラバス、オフィスアワー。

○　ある程度の情報は与えている。

Ⅲ　ドイツ語履修者数の推計

Ⅲ　ドイツ語履修者数の推計

１　大学におけるドイツ語履修者数の推計

問８で得られた各教育機関におけるドイツ語履修者数及び各教育機関のホームページ等で公開されている在学者数をもとに、大学におけるドイツ語履修者数の推計を、以下の手順で試みた。

今回の調査では、できる限り学部ごとのドイツ語履修者数を実数で回答していただいた。そこでまず、得られた回答を一件一件精査し、それが学部単体の回答か、複数学部をまとめた回答かを分類した。

次に、「調査対象リスト」に記載されたすべての大学のうち、ドイツ語履修者数について回答のあった大学と、回答のなかった大学について、それぞれ次のとおり推計を行った。

【ドイツ語履修者数について回答のあった大学】
（１）「すべての学部から回答のあった大学」の場合

・各学部におけるドイツ語履修者数を合計した（A)。
・該当する大学の（A）の値を合計することにより、「すべての学部から回答のあった大学」における合計履修者数を算出（B)。
・該当する大学のすべてについて、(A）の値を用いて、公表されている全学在学者数に占めるドイツ語履修者の割合を各大学ごとに算出した（C)。

なお、明らかに実数ではなく延べ人数による回答と思われるもの（履修者数が公表在学者数を上回るケース）については、可能な限り同じ大学の他学部の数値を参考値とし、補正を行った。同じ大学の他学部の数値が利用できない場合には、明確な回答の得られた全公表在学者数に占めるドイツ語履修者数の割合を参考値として補正を行った。この措置は、以下の手順（２）（３）において同様のケースが見られる場合にも行った。

（２）「一部の学部から回答のあった大学」の場合

・回答のあった学部のドイツ語履修者数を求め（D)、これが当該学部の公表在学者数に占める割合を算出（E)。
・次に、回答のなかった学部について、(E）で求めた割合を各学部の公表在学者数に乗じて、回答のなかった学部における履修者数の推計値を算出（F)。
・上記（D）と（F）を足し合わせることで、当該大学の全ドイツ語履修者数の推計値を算出（G)。

・同様の操作をその他の各大学に対しても適用し、それぞれの（G）の値を合計することにより、「一部の学部から回答のあった大学」における合計履修者数の推計値を算出（H)。

・「一部の学部から回答のあった大学」のすべてについて、(G) の値を用いて、公表されている全学在学者数に占めるドイツ語履修者の割合を各大学ごとに算出 (I)。

(3)「学部ごとではなく、全学部のドイツ語履修者数の合計を回答した大学」の場合

・回答にあるドイツ語履修者数をそのまま当該大学におけるドイツ語履修者数として扱った (J)。
・該当する大学の (J) の値を合計することにより、「学部ごとではなく、全学部のドイツ語履修者数の合計を回答した大学」における合計履修者数を算出 (K)。
・該当する大学のすべてについて、(J) の値を用いて、公表されている全学在学者数に占めるドイツ語履修者の割合を各大学ごとに算出した (L)。

上記 (B)、(H)、(K) を合計することにより、ドイツ語履修者数について回答のあった大学における全履修者数の推計値を算出した (M)。

【ドイツ語履修者数について回答のなかった大学】
(4)「回答のなかった大学の場合」

・ドイツ語履修者数の推計は、回答のあった大学における割合を利用することとした。
・回答のあった各大学の在学者数に占めるドイツ語履修者の割合をみたところ、データの散らばりが大きいことが確認された (最小値 0%、最大値 94.8%)。そこで、各大学の在学者数に占めるドイツ語履修者の割合の代表値として平均値ではなく、中央値を用いて推計を試みることとした。
・上記 (C) (I) (L) の値 (ドイツ語履修者数について回答のあった各大学の全在学者数に占めるドイツ語履修者の割合) を一覧のかたちで統合し、その中央値を求めたところ 7.4%であった。
・この値を「回答のなかった大学」における公表在学者数の総数に乗じて、ドイツ語履修者について回答のなかった大学における全履修者数の推計値を算出した (N)。

(5) 最後に、上記 (M)、(N) を合計し、全国の大学におけるドイツ語履修者数の推計値を算出した。

以下に、全国の大学におけるドイツ語履修者数についての推計結果を示す。

ドイツ語履修者数について回答のあった大学における履修者数の推計値
＝ 185,930

ドイツ語履修者数について回答のなかった大学における履修者数の推計値
＝ 33,344

全国の大学におけるドイツ語履修者数の推計値 ＝ 219,274

２　短期大学におけるドイツ語履修者数の推計

前章「１　大学におけるドイツ語履修者数の推計」に記したのと同じ方法により、短期大学におけるドイツ語履修者数の推計を試みた。

手順（４）において、ドイツ語履修者数について回答のあった各短期大学の全在学者数に占めるドイツ語履修者の割合から、その中央値を求めたところ 3.7%であった。そこで、ドイツ語履修者数について回答のなかった短期大学におけるドイツ語履修者の推計にあたっては、この値を係数として用いて算出することとした。

以下に、全国の短期大学におけるドイツ語履修者数についての推計結果を示す。

ドイツ語履修者数について回答のあった短期大学における履修者数の推計値
＝ 981

ドイツ語履修者数について回答のなかった短期大学における履修者数の推計値
＝ 658

全国の短期大学におけるドイツ語履修者数の推計値 ＝ 1,639

３　高等専門学校におけるドイツ語履修者数の推計

「１　大学におけるドイツ語履修者数の推計」の手順（３）以降に記したのと同じ方法により、高等専門学校におけるドイツ語履修者数の推計を試みた。

なお、在学者数については、「専攻科」の 2 学年分も含む数字を採用している。

また、キャンパスが 2 つある高等専門学校（計 5 校）については、2 つのキャンパスの数字を統合し、高等専門学校ごとに集計することとした。

手順（４）において、ドイツ語履修者数について回答のあった各高等専門学校の全在学者数に占めるドイツ語履修者の割合から、その中央値を求めたところ 6.9%であった。そこで、ドイツ語履修者数について回答のなかった高等専門学校におけるドイツ語履修者の推計にあたっては、この値を係数として用いて算出することとした。

以下に、全国の高等専門学校におけるドイツ語履修者数についての推計結果を示す。

ドイツ語履修者数について回答のあった高等専門学校における履修者数の推計値
＝ 4,015

ドイツ語履修者数について回答のなかった高等専門学校における履修者数の推計値
＝ 996

全国の高等専門学校におけるドイツ語履修者数の推計値 ＝ 5,011

４　高等学校におけるドイツ語履修者数の推計

「１　大学におけるドイツ語履修者数の推計」の手順（３）以降に記したのと同じ方法により、高等学校におけるドイツ語履修者数の推計を試みた。

手順（４）において、ドイツ語履修者数について回答のあった各高等学校の全在学者数に占めるドイツ語履修者の割合から、その中央値を求めたところ 2.8%であった。そこで、ドイツ語履修者数について回答のなかった高等学校におけるドイツ語履修者の推計にあたっては、この値を係数として用いて算出することとした。

以下に、全国の高等学校におけるドイツ語履修者数についての推計結果を示す。

ドイツ語履修者数について回答のあった高等学校における履修者数の推計値
＝ 2,144

ドイツ語履修者数について回答のなかった高等学校における履修者数の推計値
＝ 1,490

全国の高等学校におけるドイツ語履修者数の推計値 ＝ 3,634

５　全国の教育機関におけるドイツ語履修者数の推計

全国の大学・短期大学・高等専門学校・高等学校におけるドイツ語履修者数の推計値を合計し、全国の教育機関におけるドイツ語履修者数の推計値を算出した。

なお、今回の調査で得られた回答の中に、中等教育機関におけるドイツ語履修者数に関し、1 校より 54 名という回答が寄せられたが、中等教育機関は今回の調査対象ではないため、履修者数の推計には含めないこととした。

以下に、全国の教育機関（大学・短期大学・高等専門学校・高等学校）におけるドイツ語履修者数についての推計結果を示す。

全国の教育機関におけるドイツ語履修者数の推計値 ＝ 229,558

Ⅳ　資料

（調査協力依頼状）

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査（教育機関向け）

ご協力のお願い

2012 年 11 月

日本独文学会会長　室井禎之

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、日本独文学会では、日本の大学・短期大学・高等専門学校・高等学校におけるドイツ語教育の現状を把握すべく、アンケート調査を実施することにいたしました。ドイツ語教育の将来のあり方を考えるためには、まずは現状の正確な認識が不可欠ですが、現在、ドイツ語の学習者数や教員数をはじめとして各教育機関でのカリキュラムなど、ドイツ語教育の実態は十分に明らかにされているとは言いがたい状況にあります。日本独文学会では、各教育機関でのドイツ語教育の実態について信頼のおけるデータを持つことは、今後の教育改善に向けた議論の基盤となる共通認識を獲得するうえで喫緊の課題と考えており、今回皆様方のご協力を賜りたく、お願いする次第です。

お送りした調査票は二つのパートで構成されています。Part I（問 1 から問 10 まで）は、**教務に関わり貴学の状況をご存知の職員・教員**の方に、Part II（問 11 から問 19 まで）は、同じく**貴学の状況をご存知のドイツ語関係の教員**の方に回答いただければ幸いに存じます。（この点につきましては、裏面「回答にあたってのお願い」も併せてご参照ください。）

調査票から得られたデータはすべて統計的に処理し、本調査以外の目的には使用いたしません。また、ご回答の内容から個人・組織が特定されることはありませんので、何卒ご協力をお願い申し上げます。

ご回答いただいた調査票は、同封いたしました返信用封筒にて、

２０１２年１２月１４日（金）までにご投函くださいますようお願い申し上げます。

なお、データの集計はサーベイリサーチセンター社へ委託して行います。また、本調査の結果は後日報告書としてとりまとめ、日本独文学会のホームページにて公表する予定です。

お問い合わせ先：日本独文学会　ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会
E-mail: chousa-open@jgg.jp
〒170-0005　東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603
URL: http://www.jgg.jp

裏面にも記載がありますので、ご参照ください

【回答にあたってのお願い】

大学所属の方へ

◆ **学部ごとに１通の調査票をお送りしています**。受け取られた方は、質問文にある**「あなたの所属する機関」**を**「ご自分の所属学部」**と解してご回答ください。
学部に複数のキャンパスがあり、受け取られた方の部署だけでは回答が難しい場合は、たいへんお手数をおかけしますが、他キャンパスの関係部署の方とご協力・ご調整のうえ、ご回答ください。

◆ 独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻がある大学には、別途、調査票を１通お送りしています。受け取られた方は、質問文にある**「あなたの所属する機関」**を**「ご自分の所属する独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻」**と解してご回答ください。

◆ 複数の学部のドイツ語を統括する組織（外国語教育センターや全学教育機構、外国語学部などの一部の学部）があり、**受け取られた方の学部ではご回答できない場合**、たいへんお手数をおかけしますが、**統括する組織（外国語教育センターや全学教育機構、外国語学部など一部の学部）の方とご協力・ご調整のうえ、宛て名の学部についてご回答ください。**その際、質問文にある**「あなたの所属する機関」**は**「当該の学部」**と解してご回答ください。

短期大学所属の方へ

◆ 調査票を受け取られた方は、質問文にある**「あなたの所属する機関」**を**「ご自分の所属する短期大学」**と解してご回答ください。

高等専門学校・高等学校所属の方へ

◆ 調査票を受け取られた方は、質問文にある**「あなたの所属する機関」**を**「ご自分の所属する学校」**と解してご回答ください。

回答のためのガイドライン

＜問１＞

- 封筒の宛名が「〇〇大学△△学部」と記されている場合は「１」に、封筒の宛名が「〇〇大学△△学部　独語独文学専攻／ドイツ学科／ドイツ語圏文化専修」などと記されている場合は、「２」に〇をつけてください。

以下、問１で「１」と回答した方は当該学部の現状について、「２」と回答した方は当該専攻・学科・専修等の現状についてご回答ください。

＜問１−１＞

- 複数の領域にまたがる学部の場合は、もっとも近い学系を１つだけ選び、番号に〇をつけてください。どうしても１つに特定できない場合は、「12」に〇をつけ、学部名称を下欄に記入してください。

＜問２＞

- ここでいう「専任教員」とは、ドイツ語担当専任教員だけでなく、あらゆる専門領域を含む専任教員を指します。
  問１で「１」と回答した方は、当該学部の専任教員全体の数を記入してください。
  問１で「２」と回答した方は、「独語独文学専攻」「ドイツ学科」「ドイツ語圏文化専修」等の専任教員全体の数を記入してください。

＜問３＞

- 問１で「１」と回答した方は、当該学部に所属するドイツ語担当教員数を記入してください。「非常勤教員」については、たとえ他学部や外国語教育を統括するセンター等に所属していても、当該学部のドイツ語授業を担当している場合には、その数も算入してください。

＜問４＞

- ここでいう「在学者」とは、ドイツ語履修者だけでなく、すべての在学者を指します。問１で「１」と回答した方は、当該学部の在籍者総数を記入してください。
  問１で「２」と回答した方は、「独語独文学専攻」「ドイツ学科」「ドイツ語圏文化専修」等の在籍者総数を記入してください。
  問１で「４」と回答した方は、「専攻科１年生」「専攻科２年生」を含めた在籍者総数を記入してください。

＜問５＞

- 卒業に最低必要な「外国語」の総単位数を問うています。「ドイツ語」の単位ではないのでご注意ください。
  問１で「２」と回答した方は、いわゆる「外国語」の単位だけでなく専門科目の単位として設置されているドイツ語科目も含めてご回答ください。

＜問７＞

- 外国語教育センターなど全学のドイツ語授業を統括している組織があり、そこで提供している外国語科目を履修させるシステムの大学の場合は、これらの科目を「学生が履修することのできる外国語科目」と考えてご回答ください。ただし、他学部・他機関で開講されている外国語科目を「自由科目」等として履修できるような場合は、この質問で問われている外国語科目には該当しないと考えてください。

＜問８＞

- 問１で「１」と回答した方は、当該学部に属する学生の履修者数をご記入ください。なお、同一の学生が複数の科目を履修し重複があるために実数での把握が難しい場合は、延べ人数をご記入ください。外国語教育センターなど全学の外国語授業を統括している組織があり、学部では人数が把握できない場合は、統括する組織の方とご協力のうえ、当該学部に属する学生の人数についてご回答ください。

＜問９＞

- 問１で「１」と回答した方は、当該学部の学生を対象（あるいは対象の一部）として開講されているクラスの数をご回答ください。
  外国語教育センターなど全学の外国語授業を統括している組織があり、学部ではクラス数が把握できない場合は、統括する組織の方とご協力のうえ、当該学部に関わるクラス数についてご回答ください。なお、ドイツ語科目が学部横断的に開講されている場合は、当該学部に属する学生が履修することのできるクラス数をご記入ください。

＜問１０＞

- 問１で「１」と回答した方は、当該学部に属する学生のドイツ語履修者数をご記入ください。なお、同一の学生が複数の科目を履修し重複があるために実数での把握が難しい場合は、延べ人数をご記入ください。
  外国語教育センターなど全学の外国語授業を統括している組織があり、学部では人数が把握できない場合は、統括する組織の方とご協力のうえ、当該学部に属する学生の人数についてご回答ください。

＜問１１＞

- 科目名称が選択肢と異なっていても、科目内容の重点がどこにあるかに基づいてご回答ください。なお、「ドイツ語科目」はいわゆる「ドイツ語の授業」を指し、ドイツ語圏文化について日本語で講義するような科目は含みません。

＜問１２＞

- すべての教室に当該の機器・設備が備えられていなくても、そうした機器・設備を使用できる部屋がドイツ語の授業で使用可能であれば、選択してください。

＜問１４＞

- 問１で「１」「２」「３」のいずれかを回答した方は、海外ドイツ語研修制度の提供主体が学部単位でなくても、当該学部に所属する学生が学内の海外ドイツ語研修制度を利用することができる場合には、「５」だけでなく「１」～「４」の該当するものを適宜選択してください。

＜問１５＞

- 海外でのドイツ語学習を、教員が個人で便宜的に単位として認めるのではなく、正式に単位として認める制度があるかどうかを問うています。
  問１で「１」と回答した方は、当該学部でそのような制度があるかどうかをご回答ください。

＜問１６＞

- 問１で「１」と回答した方は、当該学部のドイツ語教育において、学外のドイツ語検定試験の受験をすすめているかどうかをご回答ください。

＜問１７＞

- 学外のドイツ語検定試験合格を、教員が個人で便宜的に単位として認めるのではなく、正式に単位として認める制度があるかどうかを問うています。問１で「１」と回答した方は、当該学部でそのような制度があるかどうかをご回答ください。

＜問１８＞

- ここでいう「外国語教育に関する研修」には、ＦＤ研修会のようなものも含まれます。

＜問１９＞

- ここでいう「学生に対してドイツ語の履修を促すための特別な宣伝活動」は、ドイツ語履修を促すガイダンスの開催や特別な冊子の配付など、ドイツ語履修者を増やすために特別に行う宣伝活動を指します。

（調査票）

ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査（教育機関向け）

お答えの際は、以下の点にご留意ください。

1　鉛筆または黒のボールペンで記入してください。
2　回答の際は、指示に従って、選択肢が用意されている場合には該当の番号に○をつけ、（　）**内**および**表の太枠内**には数字を記入してください。
3　数字を記入する箇所では、回答欄が空白にならないようにしてください。たとえば問２において、あなたの学校に「専任教員（任期なし）」がいない場合、回答欄には「０」を書き入れてください。
4　**質問文にある「あなたの所属する機関」の定義は、同封した依頼状（「ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査（教育機関向け）」ご協力のお願い）の裏面に記されていますので、それにしたがってご回答ください。**

Part I

問１　該当する教育機関の種別を選び、番号に○をつけてください。

1　大学（学部）
2　大学（独語独文学系・ドイツ学系の学科・専攻）
3　短期大学
4　高等専門学校
5　高等学校

（問１で「１　大学（学部）」と回答した方におたずねします。）

問１－１　あなたの学部は次のどの系統ですか。もっともよくあてはまるものを一つ選び、番号に○をつけてください。

1　人文科学系（文学、歴史、心理など）
2　社会科学系（法学、経済、経営など）
3　外国語学系
4　教育学系（教育学部、教員養成）
5　自然科学・理学系（数学、化学、物理、生物）
6　工学・農水産系
7　総合政策・情報・環境科学系
8　教養・地域・国際文化系
9　芸術系
10　医・歯学系、薬学・看護系
11　家政学・生活科学系
12　その他
【具体的に：　　】

（問１で「１　大学（学部）」と回答した方におたずねします。）

問１－２　あなたの大学には、外国語教育センターや全学教育機構など、複数の学部のドイツ語を統括する組織がありますか。

1　ある
2　ない

（問１－２で「１　ある」と回答した方におたずねします。）

問１－２－１　当該組織に専任として籍を置く**ドイツ語教員**は何名いますか。該当する教員がいない場合は、「０」を記入してください。

専任教員（任期なし）　（　　）人
専任教員（任期つき）　（　　）人

【全ての方におたずねします。】

問２　あなたの所属する機関には、**専任教員**は何名いますか。専任教員がいない場合は、「０」を記入してください。

専任教員（任期なし）　（　　）人
専任教員（任期つき）　（　　）人

問３　あなたの所属する機関には、**ドイツ語教員**は何名いますか。該当するタイプのドイツ語教員がいない場合は、「０」を記入してください。

専任教員（任期なし）	日本人（　　）人	ネイティブ（　　）人
専任教員（任期つき）	日本人（　　）人	ネイティブ（　　）人
非常勤教員	日本人（　　）人	ネイティブ（　　）人

問４　あなたの所属する機関の在学者は何名ですか。2012年５月の時点での人数をお答えください。

在学者　　（　　）人

問５　あなたの所属する機関では、卒業に最低必要な外国語の総単位数は何単位ですか。専攻等によって事情が異なる場合、あてはまるものすべてに○をつけてください。

１　０単位	４　５－６単位	７　11－12 単位
２　１－２単位	５　７－８単位	８　13－14 単位
３　３－４単位	６　９－10 単位	９　15 単位以上

問６　あなたの所属する機関では、卒業要件として複数の外国語の履修が義務づけられていますか。

１　はい　　２　いいえ

問７　あなたの所属する機関では、学生が履修することのできる外国語科目として、どのような科目が開講されていますか。開講されているものすべてに○をつけてください。

＊問１で「２　大学（独語独文系・ドイツ学系の学科・専攻)」と回答した方は、この質問を飛ばして問９へ進んでください。

１　英語	７　イタリア語
２　ドイツ語	８　ロシア語
３　フランス語	９　ポルトガル語
４　スペイン語	10　マレー・インドネシア語
５　中国語	11　アラビア語
６　韓国・朝鮮語	12　その他
	【具体的に：　　】

問８　あなたの所属する機関における各外国語科目の合計履修者数は何名ですか。**2012年５月の時点（履修者数が確定した時点）**での人数をお答えください。当該外国語科目に履修者がいない場合は、「０」を記入してください。

	2012 年５月時点		2012 年５月時点
1　英語	人	7　イタリア語	人
2　ドイツ語	人	8　ロシア語	人
3　フランス語	人	9　ポルトガル語	人
4　スペイン語	人	10　マレー・インドネシア語	人
5　中国語	人	11　アラビア語	人
6　韓国・朝鮮語	人		

【全ての方におたずねします。】

問９　開講されているドイツ語科目のクラス数はどれくらいですか。**所属機関における数**をレベルごとに週当たりの実施回数に分けて、それぞれにつき**2012年５月時点のカリキュラム**でお答えください。該当するクラスがない場合は、「０」を記入してください。

なお、ここでいう「レベル」とは、**授業開始時点で、**履修者のこれまでの授業における学習時間の合計が60時間未満の場合には「初級 I」、60時間以上120時間未満の場合には「初級 II」、120時間以上240時間未満の場合には「中級」、240時間以上の場合には「上級」を指すものとします。

学習時間の合計（既習時間）の計算例：

90 分授業が週２回で半期 15 週の場合：1.5 時間 ×２回 × 15 週 ＝ 45 時間

90 分授業が週２回で通年 30 週の場合：1.5 時間 ×２回 × 30 週 ＝ 90 時間

レベル（既習時間）	実施回数	クラス数	レベル（既習時間）	実施回数	クラス数
初級 I（60 時間未満）	週１回		中級（120 時間以上 240 時間未満）	週１回	
	週２回			週２回	
	週３回			週３回	
	週４回			週４回	
	週５回			週５回	
	週６回以上			週６回以上	
初級 II（60 時間以上 120 時間未満）	週１回		上級（240 時間以上）	週１回	
	週２回			週２回	
	週３回			週３回	
	週４回			週４回	
	週５回			週５回	
	週６回以上			週６回以上	

問10　あなたの所属する機関におけるドイツ語履修者数は何名ですか。レベルごとに、**2012年５月の時点（履修者数が確定した時点）**での人数をお答えください。レベルの目安は、問９で示した定義にしたがうものとします。対応するレベルの履修者がいない場合は、「０」を記入してください。

レベル（既習時間）	2012 年 5 月時点
初級 I（60 時間未満）	人
初級 II（60 時間以上 120 時間未満）	人
中級（120 時間以上 240 時間未満）	人
上級（240 時間以上）	人

Part II

問11　開講されているドイツ語科目の種類は何ですか。（複数回答可）

1　総合
2　読解／講読
3　会話／コミュニケーション
4　ライティング
5　リスニング
6　検定試験対策
7　文法
8　翻訳・通訳
9　異文化学習
10　地域研究／Landeskunde
11　その他
【具体的に：　　】

問12　ドイツ語の授業で利用可能な機器・環境として、どのようなものが用意されていますか。（複数回答可）

1　可動型の椅子
2　可動型の机
3　学生用 PC
4　学生用タブレット端末（iPad など）
5　無線 LAN
6　OHP
7　OHC／書画カメラ
8　DVD プレーヤー
9　CD プレーヤー
10　電子黒板
11　インターネット上の学習プラットフォーム（Moodle など）
12　その他
【具体的に：　　】

問13　複数の教員によって運営されているドイツ語科目に関して、授業の到達目標や教授法などについて、教員のあいだで共通の枠組みが設定されていますか。

1　統一的な枠組みがある
2　部分的にある
3　ない
4　該当しない（単一の教員によってすべてのドイツ語科目が運営されている）

問14　あなたの所属する機関には、学生が利用できる海外ドイツ語研修制度はありますか。
（複数回答可）

1　夏休みや春休みを利用した短期留学プログラムがある
2　学期中の留学プログラムがある
3　交換留学制度がある
4　その他の研修・留学制度がある【具体的に：　　】
5　自分の所属する機関にはないが、学内の他の機関にはある
6　学内では提供していない

問15　組織として、海外でのドイツ語学習を単位として認める制度がありますか。

1　ある　　2　ない

問16　組織として、学外のドイツ語検定試験の受験をすすめていますか。すすめている場合、どの試験をすすめていますか。（複数回答可）

1　ドイツ語技能検定試験（独検）
2　Goethe-Institut の検定試験
3　オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）
4　Test DaF
5　その他の試験　【具体的に：　　】
6　すすめていない

問17　組織として、学外のドイツ語検定試験合格を単位として認める制度がありますか。

1　ある　　2　ない

問18　あなたの所属する機関では、教員に対して、外国語教育に関する研修を受ける機会が提供されていますか。（複数回答可）

1　参加が義務付けられている研修がある
2　自由参加として提供されている研修がある
3　何も提供されていない

（問 18 で「１」または「２」と回答した方におたずねします。）
問18－１　研修の目的や内容をできるだけ具体的に教えてください。

【全ての方におたずねします。】

問19　あなたの所属する機関では、学生の外国語の履修登録に先立ち、学生に対してドイツ語の履修を促すための特別な宣伝活動をおこなっていますか。

1　おこなっている　　**2**　おこなっていない

（問 19 で「1　おこなっている」と回答した方におたずねします。）

問 19－1　宣伝活動の内容をできるだけ具体的に教えてください。

質問は以上です。ご協力いただきありがとうございました。

日本独文学会　ドイツ語教育・学習者の現状に関する調査委員会